

4 緑化植物の供給体制の現状把握

地域性在来緑化植物の供給体制の現状を把握するため、(社)日本植木協会、(社)日本種苗協会、全国山林種苗協同組合連合会に対して表 4.1の調査を実施した。

これらの調査結果等について、対象団体ごとに整理する。

表 4.1 調査内容

調査内容	(社)日本植木協会	(社)日本種苗協会	全国山林種苗協同組合連合会
生産又は供給等の実績に関する調査	●	●	●
今後の生産又は供給可能性、問題点や要望等に関する調査	●	●	

4.1 (社)日本植木協会における供給体制の現状

(社)日本植木協会では、地域性苗木生産研究会会員を中心に「地域性苗木」の生産を実施している。

この「地域性苗木」に関する平成19年の供給可能量を以下に整理する。また、地域性苗木生産研究会会員を対称に実施したアンケート結果に基づき、今後の供給可能性や生産・供給に関する現状及び問題点・要望を以下に整理する。

4.1.1 地域性苗木の供給可能量

平成19年10月現在における地域性苗木の供給可能量は、針葉樹が9種（19,050株）、常緑高木が38種（399,374株）、落葉高木が109種（419,928株）、常緑低木が21種（64,190株）、半常緑低木が4種（17,990株）、落葉低木が77種（222,224株）、草本が4種（1,100株）、常緑つる性が1種（40株）、落葉つる性が3種（600株）であり、合計約114万本が供給可能となっている。

供給可能種ごとの供給可能量の一覧を表 4.2～表 4.10に示す。また、地方別の供給可能量を以降に示す。なお、現在、生産している地域性苗木に関しては、地域性苗木としてふさわしいか否か検討中となっている樹種も含まれている。

また、地域性苗木の寸法規格について、(社)日本植木協会では、「生物多様性と系統的遺伝子資源の保全目的の苗を作るため、①優良系統選抜（母樹主義）からの脱却、②樹高による価格決定から樹齢による価格決定へ、③根系の発達する苗木育成への転換を目指し、寸法規格は樹齢に重きを置き、樹高は上下50%前後としている。

表 4.2 供給可能量 [針葉樹]

	植物種名	供給可能量 (株)		植物種名	供給可能量 (株)		植物種名	供給可能量 (株)
1	ウラジロミ	8,700	4	アスナロ	1,720	7	ネズミサシ	250
2	イチイ	4,730	5	ツガ	1,000	8	コウヤマキ	100
3	カヤ	2,000	6	アカエゾマツ	500	9	モミ	50
							総計	19,050

(平成19年10月現在)

表 4.3 供給可能量 [常緑高木]

	植物種名	供給可能 量 (株)		植物種名	供給可能 量 (株)		植物種名	供給可能 量 (株)
1	ウバメガシ	48,400	14	モチノキ	7,200	27	モッコク	504
2	ヤマモモ	43,650	15	ヤブニッケイ	6,750	28	カゴノキ	500
3	アラカシ	42,600	16	カクレミノ	6,500	29	イヌツゲ	400
4	クロガネモチ	40,250	17	ヒメユズリハ	4,860	30	アカカシ	280
5	タブノキ	29,400	18	ソヨゴ	3,500	31	ハクサンボク(ヤマテラシ)	200
6	ネズミモチ	24,250	19	ハマビワ	2,915	32	イヌカシ	100
7	サカキ	23,700	20	ツクハネガシ	1,900	33	シイノキ	100
8	シラカシ	21,600	21	タイミンタチバナ	1,650	34	ナナミノキ	100
9	スダシイ	21,500	22	タラヨウ	1,500	35	ヤマウルシ	100
10	ヤブツバキ	20,095	23	ウラジロガシ	1,100	36	ヤマモガシ	100
11	シロダモ	16,550	24	イチイガシ	1,020	37	リンボク	50
12	マテバシイ	13,000	25	ヒイラギ	1,000	38	ハナカガシ	50
13	シキミ	11,000	26	ユズリハ	1,000		総計	399,374

(平成19年10月現在)

表 4.4 供給可能量 [落葉高木]

	植物種名	供給可能 量 (株)		植物種名	供給可 能量 (株)		植物種名	供給可能 量 (株)
1	コナラ	69,468	38	シラカハ	1,570	75	ハゼノキ	400
2	ブナ	45,340	39	ヘラノキ	1,500	76	クマノミズキ	380
3	ナナカマド	21,475	40	ミズキ	1,440	77	オオヤマザクラ	350
4	ケヤキ	19,850	41	マンサク	1,320	78	ミツデカエデ	330
5	ヤマザクラ	16,000	42	キハダ	1,220	79	アラカシ	300
6	カツラ	15,720	43	アオハダ	1,150	80	オオバヤシャブシ	300
7	ネムノキ	15,350	44	トネリコ	1,150	81	カシカエデ	300
8	カスミザクラ	14,600	45	ナツツバキ	1,020	82	カマツカ	300
9	イロハモミジ	13,100	46	カラスザンショウ	1,000	83	センダン	300
10	ヤチダモ	12,263	47	アズキナシ	950	84	ハルニレ	300
11	ヤマボウシ	11,868	48	エゾノキ	950	85	ミズメ	300
12	アカシデ	11,460	49	カナクキノキ	915	86	ヤマトアオダモ	300
13	ヤマモミジ	10,985	50	ムクロジ	800	87	ウラジロノキ	250
14	カシワ	10,860	51	ケンボナシ	779	88	シナノキ	250
15	ハマボウ	9,000	52	シラキ	758	89	ゴズノイ	232
16	エゴノキ	8,580	53	アカメカシワ	750	90	オオバアサカラ	210
17	ミズナラ	6,680	54	アキニレ	750	91	アサカラ	200
18	アヘマキ	6,600	55	タムシハ	750	92	エンコウカエデ	200
19	アオダモ	6,082	56	マルバアオダモ	684	93	カカツグ	200
20	エノキ	5,830	57	エゾノコリンゴ	670	94	チシャノキ	200
21	コブシ	5,790	58	コシアブラ	600	95	メグスリノキ	200
22	イタヤカエデ	5,648	59	ノグルミ	600	96	イイギリ	160
23	ヘニヤマザクラ	5,360	60	ホオノキ	595	97	イソノキ	160
24	コハウチワカエデ	3,960	61	オニグルミ	594	98	ザイフリボク	150
25	マユミ	3,700	62	チトリノキ	552	99	アワブキ	110
26	オオモミジ	3,600	63	ムクノキ	550	100	イヌブナ	110
27	ウワミズザクラ	3,140	64	ズミ	530	101	ゴマキ	100
28	ウリハダカエデ	3,120	65	ハクウンボク	500	102	タチヤナギ	100
29	クリ	2,550	66	ヒメシャラ	500	103	タマミズキ	100
30	トチノキ	2,370	67	ヤマハゼ	500	104	アサノハカエデ	80
31	ハウチワカエデ	2,185	68	サワグルミ	490	105	コミネカエデ	50
32	イヌシデ	2,135	69	ダケカンバ	490	106	ネコノチチ	50
33	クマシデ	2,120	70	ヒガンザクラ	480	107	オトコヨウゾメ	40
34	カラコギカエデ	2,090	71	ナラガシワ	460	108	コウヤミズキ	10
35	ウリカエデ	1,810	72	フサザクラ	440	109	ツクシオオナラ	10

	植物種名	供給可能 量 (株)		植物種名	供給可 能量 (株)		植物種名	供給可能 量 (株)
36	ツリハナ	1,750	73	アブラチャン	400		総計	419,928
37	リュウブ	1,650	74	イヌサクラ	400			

(平成19年10月現在)

表 4.5 供給可能量 [常緑低木]

	植物種名	供給可能量 (株)		植物種名	供給可能量 (株)		植物種名	供給可能量 (株)
1	ハマヒサカキ	18,425	8	ヤチダモ	1,500	15	アセビ	350
2	トベラ	12,375	9	ウハメカシ	1,200	16	フジツツジ	170
3	ヒサカキ	8,150	10	ナンテン	1,000	17	ホソバシクナゲ	170
4	ミヤマシキミ	7,500	11	ユキツバキ	1,000	18	フユイチゴ	150
5	シャシャンボ	4,250	12	イソユズリハ	800	19	マルバシャリンバイ	100
6	イヌツゲ	3,200	13	ヒカゲツツジ	800	20	ハクサンシクナゲ	40
7	ナワシログミ	2,500	14	クチナシ	500	21	シャリンバイ	10
							総計	64,190

(平成19年10月現在)

表 4.6 供給可能量 [半常緑低木]

	植物種名	供給可能量 (株)
1	ヤマツツジ	14,640
2	モチツツジ	2,050
3	サタツツジ	1,000
4	オオヤマツツジ	300
	総計	17,990

(平成19年10月現在)

表 4.7 供給可能量 [落葉低木]

	植物種名	供給可能 量 (株)		植物種名	供給可能 量 (株)		植物種名	供給可能 量 (株)
1	ハマナス	75,000	27	ノリウツキ	950	53	アブラチャン	158
2	アキグミ	28,050	28	カバレンゲ	885	54	チョウジカマスミ	150
3	カマスミ	16,720	29	イソノキ	600	55	ツルウメトキ	150
4	ユキヤナキ	11,100	30	コガクウツキ	600	56	タンナサワフタキ	130
5	ヒメウツキ	8,400	31	ヤブデマリ	570	57	ニワトコ	130
6	コマユミ	7,850	32	キブシ	550	58	コメウツキ	116
7	コバノミツハツツジ	7,590	33	レンゲツツジ(カバレンゲ)	500	59	アシタカツツジ	100
8	ヤマハギ	6,000	34	ダンコウバイ	450	60	オオカメノキ	100
9	シロモジ	5,300	35	サワフタキ	440	61	キヨシミツハツツジ	100
10	ナツハゼ	5,100	36	ヤマコウバシ	430	62	クマイチゴ	100
11	コバノカマスミ	4,932	37	ナカハノコウヤボウキ	408	63	コアブラツツジ	100
12	ウツキ	4,700	38	ホサキシモツケ	400	64	ヌルデ	100
13	ムラサキシキブ	3,626	39	ウグイスカグラ	300	65	マンサク	100
14	カンボク	3,530	40	コウゾ	300	66	ミヤマハハソ	100
15	ミヤマカマスミ	3,450	41	マルハノキ	300	67	ウラジロウツキ	80
16	タニウツキ	2,700	42	ヤマウグイスカグラ	250	68	ニカイチゴ	60
17	ウメトキ	2,696	43	イブキシモツケ	200	69	タラノキ	50
18	クロモジ	2,100	44	クサキ	200	70	フジウツキ	50
19	カマツカ	2,056	45	コバンノキ	200	71	ツノハシハミ	45
20	トサミスギ	2,044	46	シロサワフタキ	200	72	キカンビ	30
21	ミツハツツジ	1,700	47	タマアジサイ	200	73	ナワシロイチゴ	30
22	ツクハネウツキ	1,650	48	ニシキウツキ	200	74	コバノミツハツツジ(白花)	20
23	ヤマアジサイ	1,050	49	ハナイカダ	200	75	ネジギ	20
24	イヌビワ	1,000	50	ミツハウツキ	200	76	カイナナサラサドウダン	15
25	ヤブムラサキ	970	51	ミヤマウグイスカグラ	200	77	ナカハモミジイチゴ	13
26	イボタノキ	950	52	アカヤシオ	180		総計	222,224

(平成19年10月現在)

表 4.8 供給可能量 [草本]

	植物種名	供給可能量(株)
1	ツツブキ	860
2	ヤブラン	100
3	ユキノシタ	100
4	セトウチキ'ホ'ウシ	40
	総計	1,100

(平成19年10月現在)

表 4.9 供給可能量 [常緑つる性]

	植物種名	供給可能量 (株)
1	イワカ'ラミ	40
	総計	40

(平成19年 10月現在)

表 4.10 供給可能量 [落葉つる性]

	植物種名	供給可能量 (株)
1	サルナシ	300
2	アケビ'	200
3	ヤマフジ'	100
	総計	600

(平成19年 10月現在)

(1) 北海道地方

北海道地方では、平成19年10月現在、12種、約1.3万本の地域性苗木が供給可能である（図4.1及び表4.11参照）。

供給可能な植物種は、ヤチダモが最も多く約0.2万本となり、北海道全体の供給可能量の19%を占めている。次いで、ヤマモミジが約0.2万本（18%）、カラコギカエデが約0.2万本（14%）となっている。

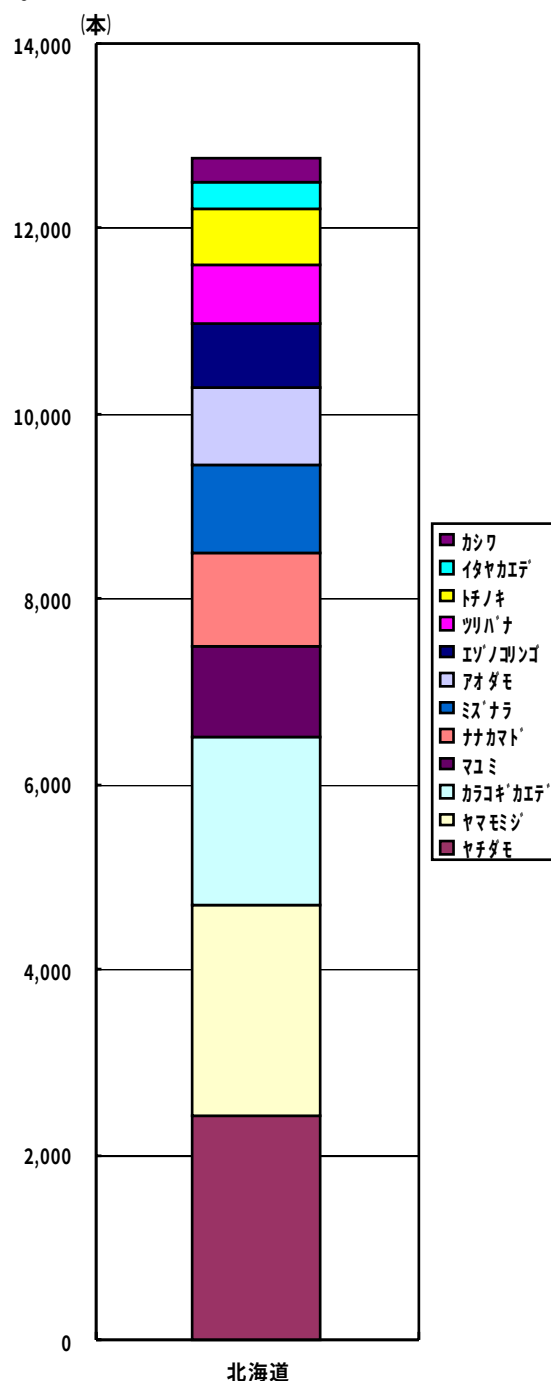


図 4.1 供給可能量 [北海道地方]

表 4.11 供給可能量 [北海道地方]

	北海道	供給可能量計 (本)	割合
ヤチダ'モ	2,400	2,400	19%
ヤマモシ'	2,300	2,300	18%
カラコキ'カエ'	1,800	1,800	14%
マユミ	1,000	1,000	8%
ナナカマト'	1,000	1,000	8%
ミス'ナラ	950	950	7%
アオダ'モ	850	850	7%
エゾ'ノコリンゴ'	670	670	5%
ツリハ'ナ	650	650	5%
トチノキ	600	600	5%
イタヤカエ'	300	300	2%
カシワ	250	250	2%
総計	12,770	12,770	100%

(2) 東北地方

東北地方では、平成19年10月現在、42種、約14.8万本の地域性苗木が供給可能である（図4.2及び表4.12参照）。

供給可能な植物種は、ブナが最も多く約3.6万本となり、東北地方全体の供給可能量の24.2%を占めている。次いで、ナナカマドが約1.3万本（8.8%）、カツラが約1.3万本（8.6%）となっている。

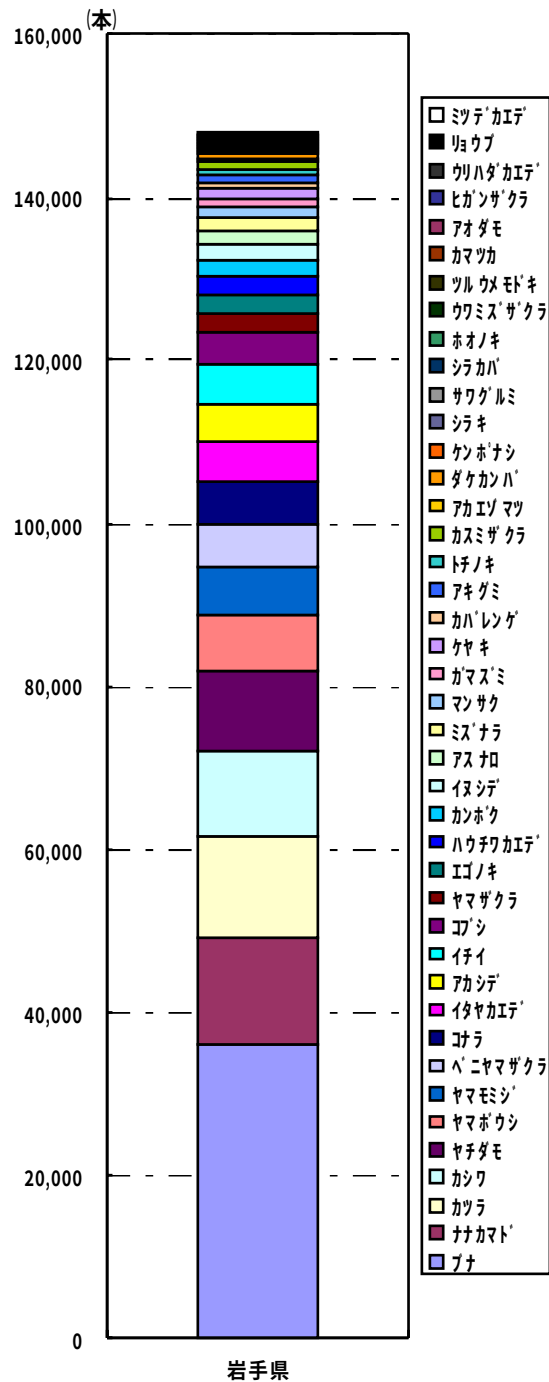


図 4.2 供給可能量 [東北地方]

表 4.12 供給可能量 [東北地方]

	岩手県	供給可能量計 (本)	割合		岩手県	供給可能量計 (本)	割合
ブナ	35,810	35,810	24.2%	カマスミ	1,220	1,220	0.8%
ナナカマド	13,075	13,075	8.8%	ケヤキ	1,050	1,050	0.7%
カツラ	12,700	12,700	8.6%	カハレンケ	885	885	0.6%
カシワ	10,480	10,480	7.1%	アキグミ	850	850	0.6%
ヤチタモ	9,863	9,863	6.7%	トチノキ	820	820	0.6%
ヤマボウシ	6,628	6,628	4.5%	カスミサクラ	660	660	0.4%
ヤマモミシ	5,985	5,985	4.1%	アカエゾマツ	500	500	0.3%
ヘニヤマサクラ	5,360	5,360	3.6%	ダケカンバ	490	490	0.3%
コナラ	5,018	5,018	3.4%	ケンホナシ	469	469	0.3%
イタヤカエデ	4,998	4,998	3.4%	シラキ	390	390	0.3%
アカシデ	4,830	4,830	3.3%	サワグルミ	320	320	0.2%
イチイ	4,730	4,730	3.2%	シラカハ	290	290	0.2%
コブシ	3,740	3,740	2.5%	ホオノキ	195	195	0.1%
ヤマサクラ	2,700	2,700	1.8%	ウワミスサクラ	150	150	0.1%
エコノキ	2,200	2,200	1.5%	ツルウメモドキ	150	150	0.1%
ハウチワカエデ	2,185	2,185	1.5%	カマツカ	140	140	0.1%
カンボク	2,100	2,100	1.4%	アオタモ	132	132	0.1%
イヌシデ	1,835	1,835	1.2%	ヒガンサクラ	130	130	0.1%
アスナロ	1,620	1,620	1.1%	ウリハダカエデ	100	100	0.1%
ミスナラ	1,520	1,520	1.0%	リョウブ	80	80	0.1%
マンサク	1,320	1,320	0.9%	ミツデカエデ	50	50	0.0%
				総計	147,768	147,768	100.0%

(3) 関東地方

関東地方では、平成19年10月現在、69種、約6.3万本の地域性苗木が供給可能である（図 4.3 及び表 4.13参照）。

供給可能な植物種は、ヤマツツジが最も多く1.3万本となり、関東地方全体の供給可能量の20.5%を占めている。次いで、アキグミが1万本（15.8%）、ガマズミが約0.5万本（8.1%）となっている。

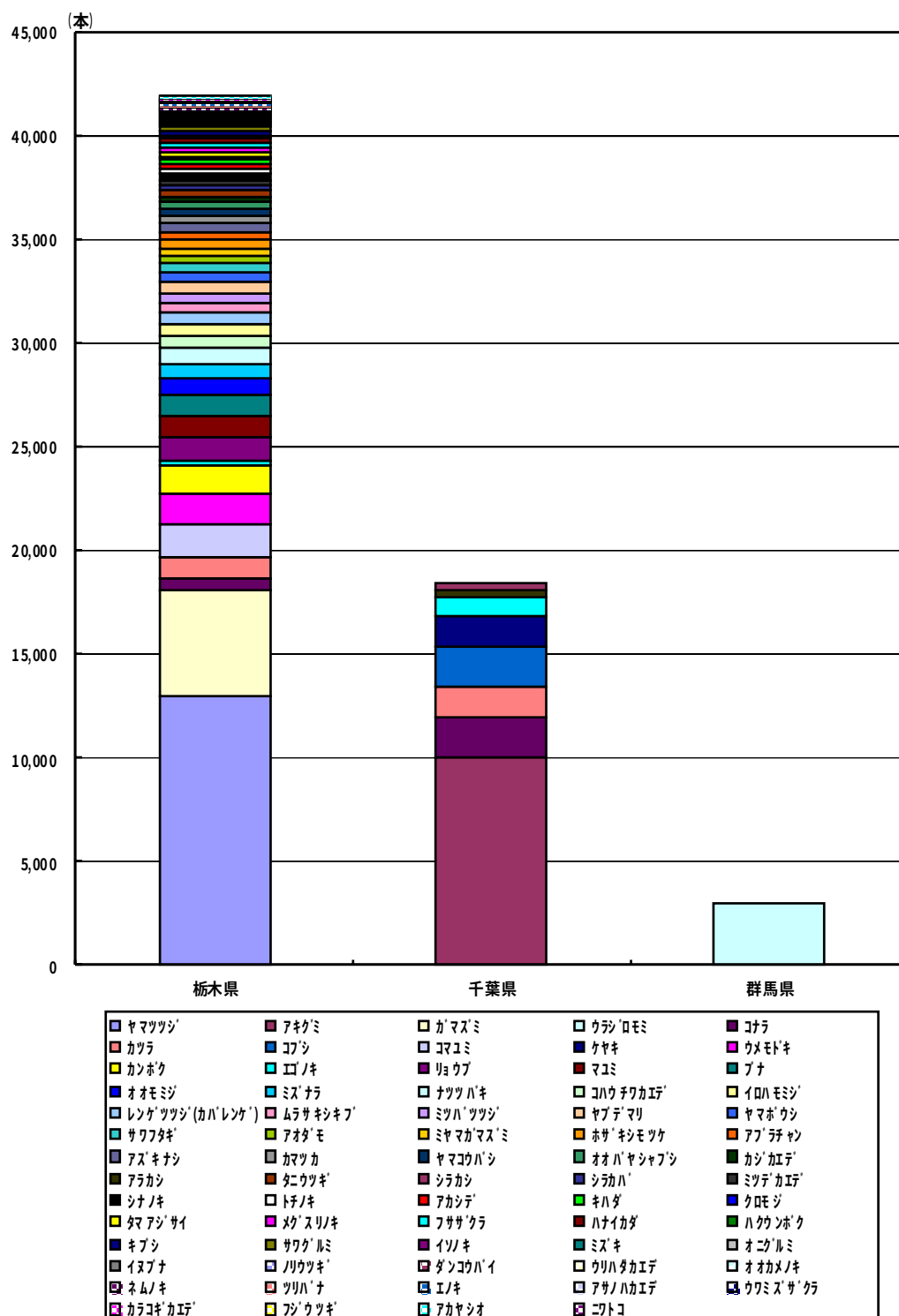


図 4.3 供給可能量 [関東地方]

表 4.13 供給可能量 [関東地方]

	栃木県	千葉県	群馬県	供給可能量計(本)	割合(%)
ヤマツツジ	13,000			13,000	20.5%
アキグミ		10,000		10,000	15.8%
ガマスミ	5,100			5,100	8.1%
ウラジロモミ			3,000	3,000	4.7%
コナラ	600	2,000		2,600	4.1%
カツラ	920	1,500		2,420	3.8%
コブシ		1,800		1,800	2.8%
コマユミ	1,600			1,600	2.5%
ケヤキ		1,500		1,500	2.4%
ウメモトキ	1,500			1,500	2.4%
カンホク	1,350			1,350	2.1%
エコノキ	300	1,000		1,300	2.1%
リョウブ	1,120			1,120	1.8%
マユミ	1,000			1,000	1.6%
ブナ	1,000			1,000	1.6%
オオモミジ	800			800	1.3%
ミスナラ	730			730	1.2%
ナツツバキ	720			720	1.1%
コハウチワカエデ	600			600	0.9%
イロハモミジ	600			600	0.9%
レンケツツジ(カハレンケ)	500			500	0.8%
ムラサキシキブ	500			500	0.8%
ミツハツツジ	500			500	0.8%
ヤブデマリ	470			470	0.7%
ヤマホウシ	440			440	0.7%
サワフタギ	440			440	0.7%
アオダモ	400			400	0.6%
ミヤマカマスミ	400			400	0.6%
ホザキシモツケ	400			400	0.6%
アブラチャン	400			400	0.6%
アズキナシ	360			360	0.6%
カマツカ	350			350	0.6%
ヤマコウハシ	330			330	0.5%
オオハヤシャブシ	300			300	0.5%
カシカエデ	300			300	0.5%
アラカシ		300		300	0.5%
タニウツギ	300			300	0.5%
シラカシ		300		300	0.5%
シラカハ	280			280	0.4%

	栃木県	千葉県	群馬県	供給可能量計(本)	割合(%)
ミツデ'カエデ'	250			250	0.4%
シナノキ	250			250	0.4%
トチノキ	250			250	0.4%
アカンデ'	240			240	0.4%
キハダ'	220			220	0.3%
クロモジ'	200			200	0.3%
タマアジ'サイ	200			200	0.3%
メク'スリノキ	200			200	0.3%
フサ'クラ	200			200	0.3%
ハナイカタ'	200			200	0.3%
ハクウンボ'ク	200			200	0.3%
キブ'シ	180			180	0.3%
サワク'ルミ	170			170	0.3%
イソノキ	160			160	0.3%
ミズ'キ	150			150	0.2%
オニグ'ルミ	130			130	0.2%
イヌフ'ナ	110			110	0.2%
ノリウツキ'	100			100	0.2%
ダ'ンコウハ'イ	100			100	0.2%
ウリハダ'カエデ'	100			100	0.2%
オオカメノキ	100			100	0.2%
ネムノキ	100			100	0.2%
ツリハ'ナ	100			100	0.2%
エノキ	80			80	0.1%
アサノハカエデ'	80			80	0.1%
ウワミス'サ'クラ	60			60	0.1%
カラコキ'カエデ'	60			60	0.1%
フジ'ウツギ'	50			50	0.1%
アカヤシオ	30			30	0.0%
ニワトコ	30			30	0.0%
総計	41,910	18,400	3,000	63,310	100.0%

(4) 北陸地方

北陸地方では、平成19年10月現在、25種、約11.2万本の地域性苗木が供給可能である（図4.4及び表4.14参照）。

供給可能な植物種は、ハマナスが最も多く約7.5万本となり、北陸地方全体の供給可能量の66.7%を占めている。次いで、シロダモが0.8万本（7.4%）、ナナカマドが0.5万本（4.4%）となっている。

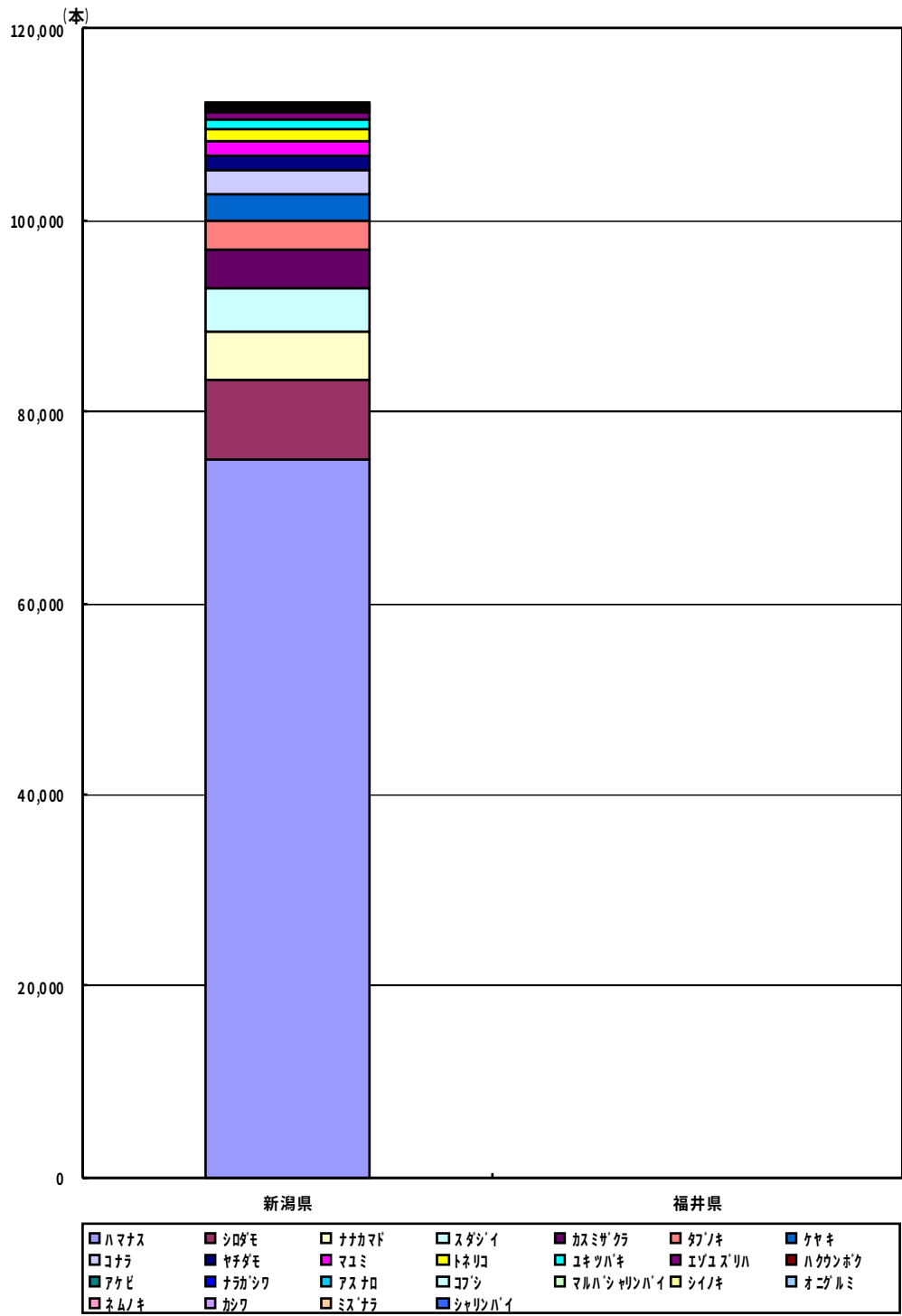


図 4.4 供給可能量 [北陸地方]

表 4.14 供給可能量 [北陸地方]

	新潟県	福井県	供給可能量計(本)	割合
ハマナス	75,000		75,000	66.7%
シロダモ	8,300		8,300	7.4%
ナナカマド	5,000		5,000	4.4%
スタジイ	4,500		4,500	4.0%
カスミサクラ	4,000		4,000	3.6%
タフノキ	3,200		3,200	2.8%
ケヤキ	2,700		2,700	2.4%
コナラ	2,600		2,600	2.3%
ヤチダモ	1,500		1,500	1.3%
マユミ	1,500		1,500	1.3%
トネリコ	1,150		1,150	1.0%
ユキツバキ	1,000		1,000	0.9%
エゾユズリハ	800		800	0.7%
ハクウンボク	300		300	0.3%
アケビ	200		200	0.2%
ナラガシワ	150		150	0.1%
アスナロ		100	100	0.1%
コブシ	100		100	0.1%
マルハシャリンハイ	100		100	0.1%
シイノキ	100		100	0.1%
オニグルミ	50		50	0.0%
ネムノキ	50		50	0.0%
カシワ	30		30	0.0%
ミズナラ	20		20	0.0%
シャリンハイ		10	10	0.0%
総計	112,350	110	112,460	100.0%

(5) 中部地方

中部地方では、平成19年10月現在、40種、約5.3万本の地域性苗木が供給可能である（図 4.5 及び表 4.15参照）。

供給可能な植物種は、ミヤマシキミが最も多く約0.7万本となり、中部地方全体の供給可能量の14.0%を占めている。次いで、ウラジロモミが約0.6万本（10.7%）、コバノミツバツツジが約0.5万本（8.8%）となっている。

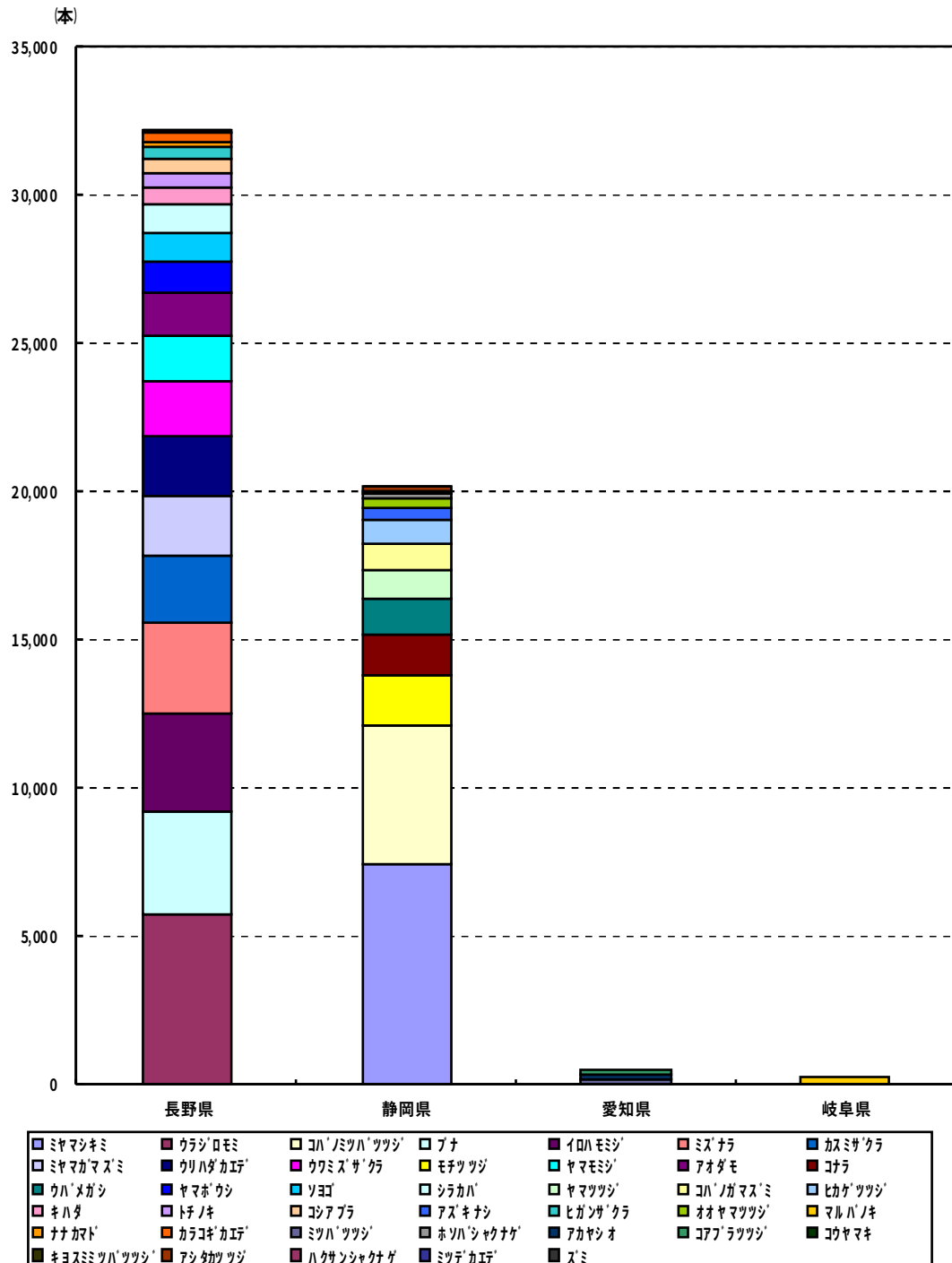


図 4.5 供給可能量 [中部地方]

表 4.15 供給可能量 [中部地方]

	長野県	静岡県	愛知県	岐阜県	供給可能量計(本)	割合
ミヤマシキミ		7,400			7,400	14.0%
ウラジロモミ	5,700				5,700	10.7%
コハ'ノミツハ'ツツジ'		4,690			4,690	8.8%
フナ	3,500				3,500	6.6%
イロハモミジ'	3,300				3,300	6.2%
ミス'ナラ	3,000				3,000	5.7%
カスミザ'クラ	2,300				2,300	4.3%
ミヤマカ'マス'ミ	2,000				2,000	3.8%
ウリハダ'カエデ'	2,000				2,000	3.8%
ウワミス'サ'クラ	1,900				1,900	3.6%
モチツツジ'		1,700			1,700	3.2%
ヤマモミジ'	1,500				1,500	2.8%
アオダ'モ	1,500				1,500	2.8%
コナラ		1,400			1,400	2.6%
ウハ'メカ'シ		1,200			1,200	2.3%
ヤマホ'ウシ	1,000				1,000	1.9%
ソヨゴ'	1,000				1,000	1.9%
シラカハ'	1,000				1,000	1.9%
ヤマツツジ'		940			940	1.8%
コハ'ノカ'マス'ミ		900			900	1.7%
ヒカケ'ツツジ'		800			800	1.5%
キハダ'	500				500	0.9%
トチノキ	500				500	0.9%
コシアブ'ラ	500				500	0.9%
アス'キナシ		400			400	0.8%
ヒガンサ'クラ	350				350	0.7%
オオヤマツツジ'		300			300	0.6%
マルハ'ノキ				250	250	0.5%
ナナカマド'	250				250	0.5%
カラコギ'カエデ'	230				230	0.4%
ミツハ'ツツジ'			200		200	0.4%
ホソハ'シャクナケ'		170			170	0.3%
アカヤシオ			150		150	0.3%
コアブ'ラツツジ'			100		100	0.2%
コウヤマキ	100				100	0.2%
キヨスミツハ'ツツジ'		100			100	0.2%
アシタカツツジ'		100			100	0.2%
ハクサンシャクナケ'		40			40	0.1%
ミツデ'カエデ'	30				30	0.1%
ス'ミ	30				30	0.1%
総計	32,190	20,140	450	250	53,030	100.0%

(6) 近畿地方

近畿地方では、平成19年10月現在、100種、約8.7万本の地域性苗木が供給可能である（図4.6及び表4.16参照）。

供給可能な植物種は、コナラが最も多く約1.3万本となり、近畿地方全体の供給可能量の14.7%を占めている。次いで、イロハモミジが約0.6万本（7.3%）、アベマキが約0.6万本（7.1%）となっている。

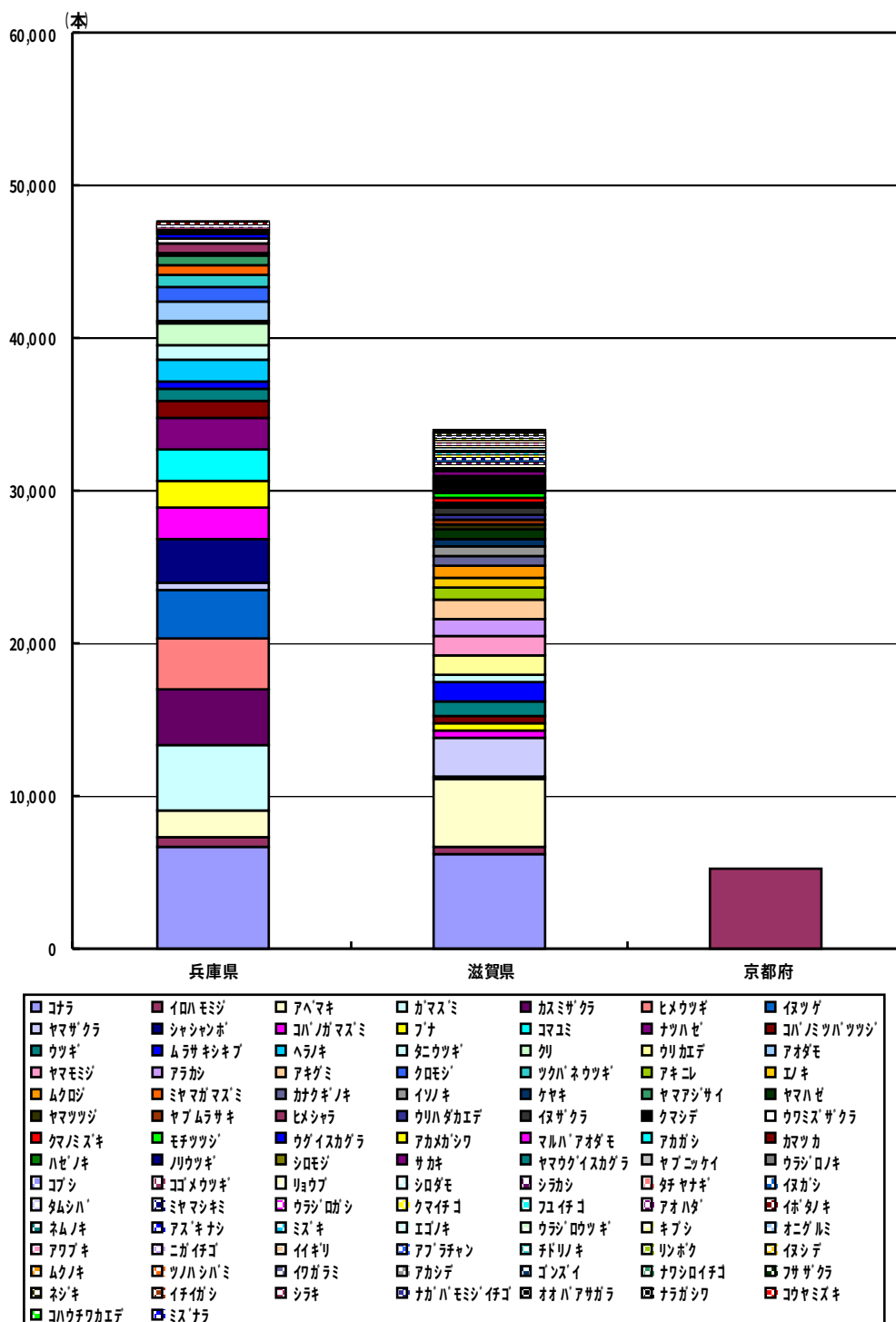


図 4.6 供給可能量 [近畿地方]

表 4.16 供給可能量 [近畿地方]

	兵庫県	滋賀県	京都府	供給可能量計 (本)	割合
コナラ	6,600	6,200		12,800	14.7%
イロハモミジ	600	500	5,250	6,350	7.3%
アヘマキ	1,850	4,300		6,150	7.1%
ガマスミ	4,300	250		4,550	5.2%
カスミザクラ	3,600	40		3,640	4.2%
ヒメウツキ	3,350			3,350	3.9%
イヌツゲ	3,200			3,200	3.7%
ヤマザクラ	400	2,500		2,900	3.3%
シャシャンボ	2,900			2,900	3.3%
コハノガマスミ	2,000	432		2,432	2.8%
フナ	1,880	450		2,330	2.7%
コマユミ	2,100			2,100	2.4%
ナツハゼ	1,900			1,900	2.2%
コハノミツハツツジ	1,250	500		1,750	2.0%
ウツキ	750	950		1,700	2.0%
ムラサキシキブ	400	1,276		1,676	1.9%
ヘラノキ	1,500			1,500	1.7%
タニウツキ	1,000	500		1,500	1.7%
クリ	1,450			1,450	1.7%
ウリカエデ	100	1,310		1,410	1.6%
アオタモ	1,320			1,320	1.5%
ヤマモミジ		1,200		1,200	1.4%
アラカシ		1,200		1,200	1.4%
アキグミ		1,200		1,200	1.4%
クロモジ	900			900	1.0%
ツクハネウツキ	750			750	0.9%
アキニレ		750		750	0.9%
エノキ		750		750	0.9%
ムクロジ		700		700	0.8%
ミヤマガマスミ	700			700	0.8%
カナクキノキ		700		700	0.8%
イソノキ		600		600	0.7%
ケヤキ		600		600	0.7%
ヤマアジサイ	550			550	0.6%
ヤマハゼ		500		500	0.6%
ヤマツツジ	200	300		500	0.6%
ヤブムラサキ	100	350		450	0.5%
ヒメシャラ	450			450	0.5%
ウリハダカエデ		420		420	0.5%

	兵庫県	滋賀県	京都府	供給可能量計(本)	割合
イヌサクラ		400		400	0.5%
クマシデ	100	270		370	0.4%
ウワミスサクラ	300	30		330	0.4%
クマノミズキ		310		310	0.4%
モチツツジ		300		300	0.3%
ウケノミ	300			300	0.3%
アカメカシ		250		250	0.3%
マルハアオダモ	150	100		250	0.3%
アカカシ	100	150		250	0.3%
カマツカ	100	112		212	0.2%
ハゼノキ		200		200	0.2%
ノリウツギ		200		200	0.2%
シロモジ		200		200	0.2%
サカキ		200		200	0.2%
ヤマウケノミ	150			150	0.2%
ヤブニッケイ		150		150	0.2%
ウラジロノキ		150		150	0.2%
コブシ		150		150	0.2%
コノメウツギ	100	16		116	0.1%
リョウブ		100		100	0.1%
シロダモ		100		100	0.1%
シラカシ		100		100	0.1%
タチヤナギ		100		100	0.1%
イヌカシ		100		100	0.1%
タムシハ	100			100	0.1%
ミヤマシキミ		100		100	0.1%
ウラジロカシ		100		100	0.1%
クマイチゴ		100		100	0.1%
フユイチゴ		100		100	0.1%
アオハタ	100			100	0.1%
イホタノキ	100			100	0.1%
ネムノキ		100		100	0.1%
アスナギ		90		90	0.1%
ミズキ		90		90	0.1%
エゴノキ		80		80	0.1%
ウラジロウツギ		80		80	0.1%
キナシ		70		70	0.1%
オニグルミ		64		64	0.1%
アワフキ		60		60	0.1%
ニガイチゴ		60		60	0.1%

	兵庫県	滋賀県	京都府	供給可能量計(本)	割合
イイキ'リ		60		60	0.1%
アフ'ラチャン		58		58	0.1%
チト'リノキ		52		52	0.1%
リンホ'ク		50		50	0.1%
イヌシデ'		50		50	0.1%
ムクノキ		50		50	0.1%
ツノハシハ'ミ		45		45	0.1%
イワガ'ラミ		40		40	0.0%
アカシデ'		40		40	0.0%
ゴ'ンス'イ		32		32	0.0%
ナワシロイ'チコ'		30		30	0.0%
フササ'クラ		30		30	0.0%
ネジ'キ		20		20	0.0%
イチイガ'シ			20	20	0.0%
シラ'キ		18		18	0.0%
ナカ'ハ'モミシ'イ'チコ'		13		13	0.0%
オオハ'アサガ'ラ		10		10	0.0%
ナラガ'シワ		10		10	0.0%
コウヤミス'キ		10		10	0.0%
コハウチワカエ'デ'		10		10	0.0%
ミス'ナラ			10	10	0.0%
総計	47,700	33,888	5,280	86,868	100.0%

(7) 四国地方

四国地方では、平成19年10月現在、71種、約57.3万本の地域性苗木が供給可能である（図4.7及び表4.17参照）。

供給可能な植物種は、ウバメガシが最も多く約4.8万本となり、四国地方全体の供給可能量の8.4%を占めている。次いで、コナラが4.4万本（7.7%）、ヤマモモが約4.4万本（7.6%）となっている。

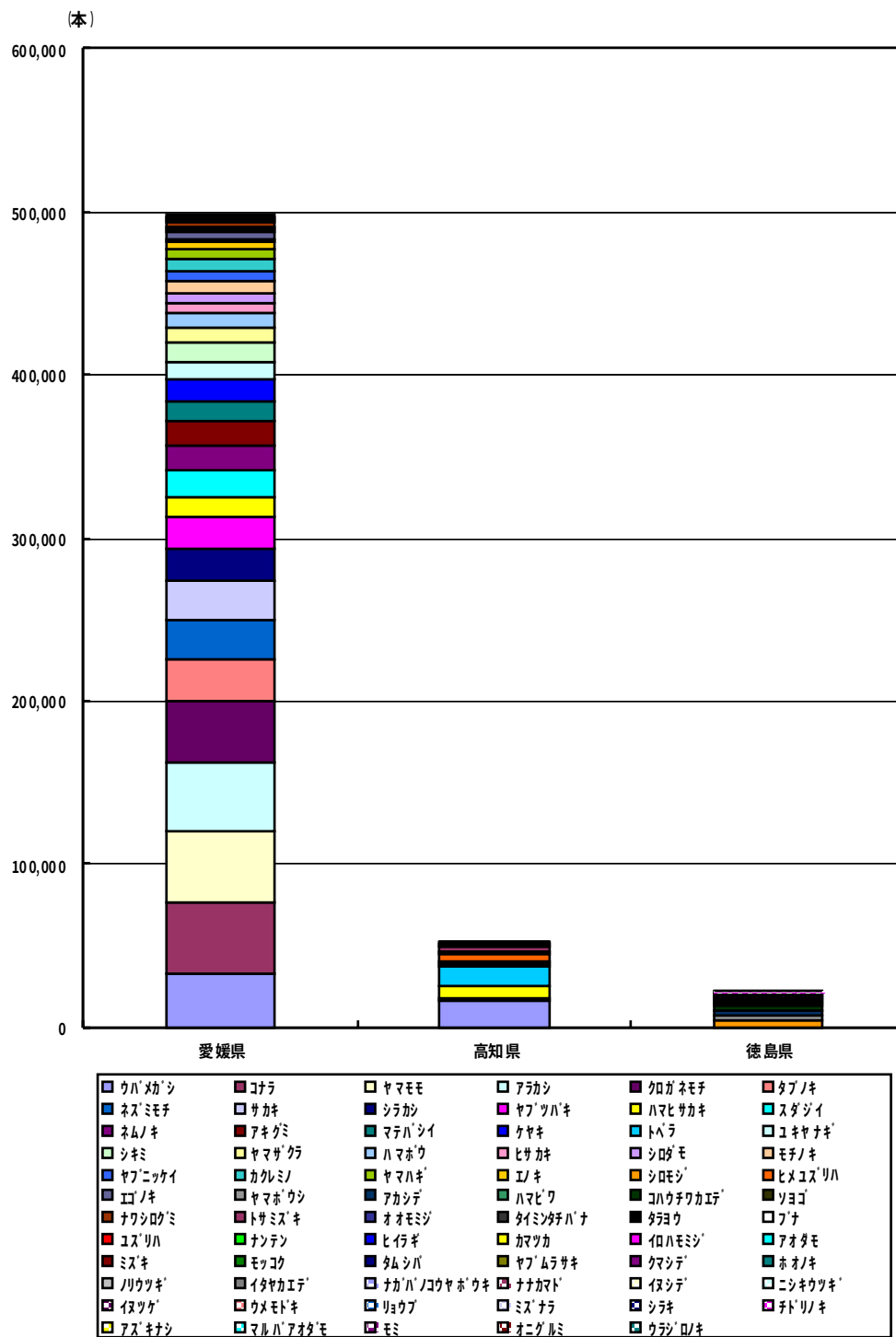


図 4.7 供給可能量 [四国地方]

表 4.17 供給可能量 [四国地方]

	愛媛県	高知県	徳島県	供給可能量計(本)	割合
ウハ'メガ'シ	33,000	15,400		48,400	8.4%
コナラ	44,000			44,000	7.7%
ヤマモモ	43,650			43,650	7.6%
アラカシ	41,400			41,400	7.2%
クロガ'ネモチ	38,600	1,650		40,250	7.0%
タブ'ノキ	25,200			25,200	4.4%
ネズ'ミモチ	24,000			24,000	4.2%
サカキ	23,500			23,500	4.1%
シラカシ	20,200			20,200	3.5%
ヤブ'ツハ'キ	19,600	495		20,095	3.5%
ハマビサカキ	11,000	7,425		18,425	3.2%
スタ'ジイ	17,000			17,000	3.0%
ネム'ノキ	15,100			15,100	2.6%
アキグ'ミ	15,000			15,000	2.6%
マテハ'シイ	13,000			13,000	2.3%
ケヤキ	13,000			13,000	2.3%
トハ'ラ		12,375		12,375	2.2%
ユキヤナキ'	11,100			11,100	1.9%
シキミ	11,000			11,000	1.9%
ヤマサ'クラ	10,000			10,000	1.7%
ハマホ'ウ	9,000			9,000	1.6%
ヒサカキ	6,000	1,650		7,650	1.3%
シロダ'モ	6,000	1,650		7,650	1.3%
モチ'ノキ	7,200			7,200	1.3%
ヤブ'ニッケイ	6,500			6,500	1.1%
カクレミノ	6,500			6,500	1.1%
ヤマハキ'	6,000			6,000	1.0%
エ'ノキ	5,000			5,000	0.9%
シロモジ'			4,900	4,900	0.9%
ヒメユス'リハ	1,500	3,360		4,860	0.8%
エゴ'ノキ	4,000			4,000	0.7%
ヤマホ'ウシ	2,000		1,800	3,800	0.7%
アカシデ'			3,500	3,500	0.6%
ハマビ'ワ		2,915		2,915	0.5%
コハウチワカエデ'			2,700	2,700	0.5%
ソヨコ'	2,500			2,500	0.4%
ナワシログ'ミ	2,500			2,500	0.4%
トサミス'キ		2,044		2,044	0.4%

	愛媛県	高知県	徳島県	供給可能量計(本)	割合
オオモシジ			1,800	1,800	0.3%
タイミンタチハナ		1,650		1,650	0.3%
タラヨウ	1,500			1,500	0.3%
ブナ			1,100	1,100	0.2%
ユスリハ	1,000			1,000	0.2%
ナンテン	1,000			1,000	0.2%
ヒイラキ	1,000			1,000	0.2%
カマツカ		504	450	954	0.2%
イロハモシジ			850	850	0.1%
アオタモ			800	800	0.1%
ミスギ			700	700	0.1%
モッコク		504		504	0.1%
タムシハ			450	450	0.1%
ヤブムラサキ		420		420	0.1%
クマシデ			400	400	0.1%
ホオノキ			400	400	0.1%
ノリウツギ			350	350	0.1%
イタヤカエデ			350	350	0.1%
ナカハノコウヤホウキ		308		308	0.1%
ナナカマド			300	300	0.1%
イヌシデ			250	250	0.0%
ニシキウツギ			200	200	0.0%
イヌツゲ	200			200	0.0%
ウメモトギ		196		196	0.0%
リョウブ			150	150	0.0%
ミスナラ			150	150	0.0%
シラキ			150	150	0.0%
チドリノキ			100	100	0.0%
アスキナシ			100	100	0.0%
マルハアオタモ		84		84	0.0%
モミ			50	50	0.0%
オニグルミ			50	50	0.0%
ウラジロノキ			50	50	0.0%
総計	498,750	52,630	22,100	573,480	100.0%

(8) 中国地方

中国地方では、平成19年10月現在、63種、5.3万本の地域性苗木が供給可能である（図 4.8 及び表 4.18参照）。

供給可能な植物種は、ヒメウツギが最も多く約0.5万本となり、中国地方全体の供給可能量の9.5%を占めている。次いで、ガマズミが約0.5万本（9.1%）、カスミザクラが0.4万本（7.5%）となっている。

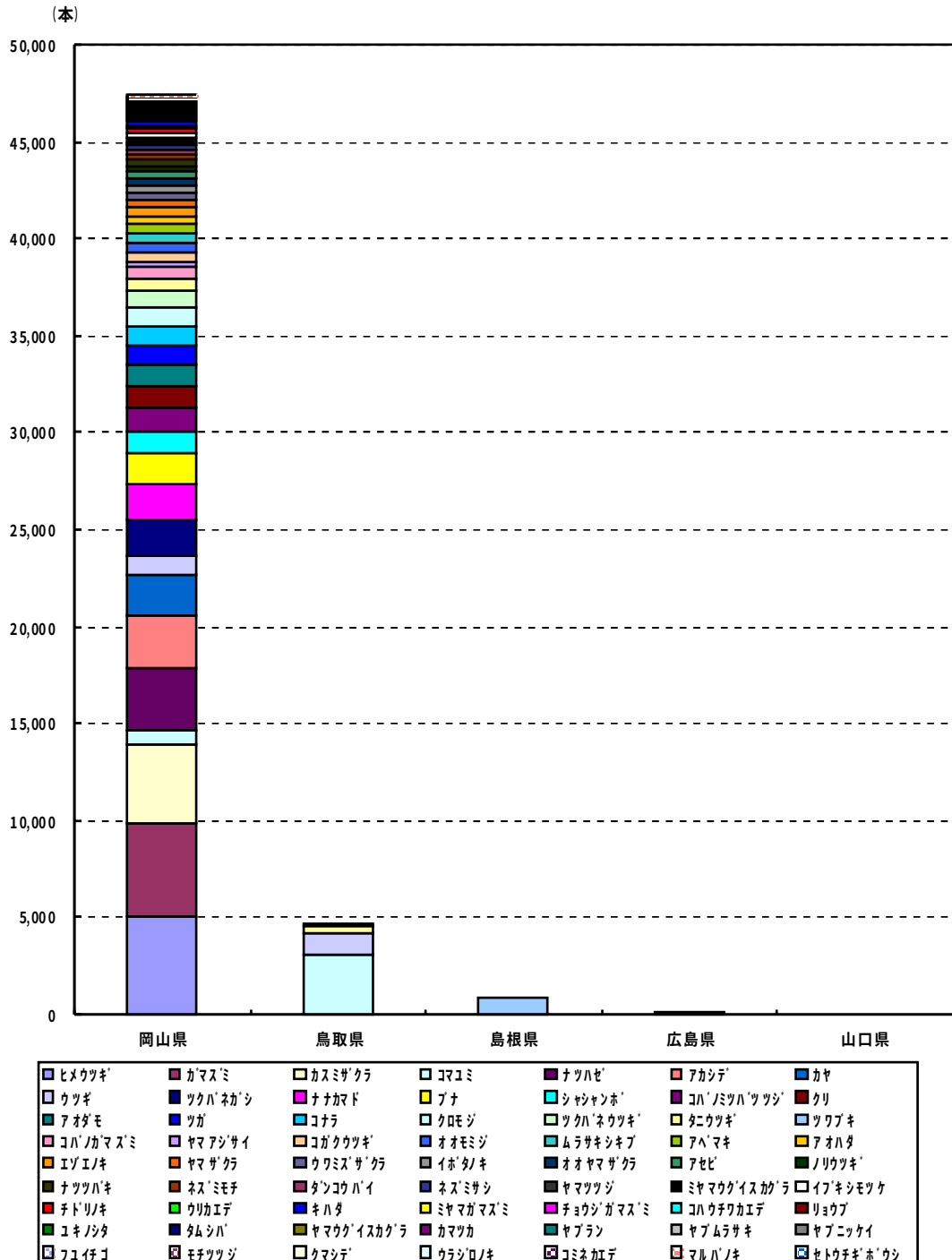


図 4.8 供給可能量 [中国地方]

表 4.18 供給可能量 [中国地方]

	岡山県	鳥取県	島根県	広島県	山口県	供給可能量計 (本)	割合
ヒメウツギ	5,050					5,050	9.5%
ガマスミ	4,850					4,850	9.1%
カスミサクラ	4,000					4,000	7.5%
コマユミ	700	3,150				3,850	7.2%
ナツハゼ	3,200					3,200	6.0%
アカシデ	2,800					2,800	5.3%
カヤ	2,000					2,000	3.8%
ウツギ	1,000	1,000				2,000	3.8%
ツクハネガシ	1,900					1,900	3.6%
ナナカマド	1,850					1,850	3.5%
ブナ	1,600					1,600	3.0%
シャシャンホ	1,150					1,150	2.2%
コハノミツハツツジ	1,150					1,150	2.2%
クリ	1,100					1,100	2.1%
アオダモ	1,080					1,080	2.0%
ツガ	1,000					1,000	1.9%
コナラ	1,000					1,000	1.9%
クロモジ	1,000					1,000	1.9%
ツクハネウツギ	900					900	1.7%
タニウツギ	550	350				900	1.7%
ツワブキ			860			860	1.6%
コハノガマスミ	600					600	1.1%
ヤマアジサイ	300	200				500	0.9%
コガクウツギ	500					500	0.9%
オオモミジ	500					500	0.9%
ムラサキシキブ	450					450	0.8%
アヘマキ	450					450	0.8%
アオハダ	450					450	0.8%
エゾエノキ	450					450	0.8%
ヤマザクラ	400					400	0.8%
ウワミスサクラ	400					400	0.8%
イホタノキ	350					350	0.7%
オオヤマザクラ	350					350	0.7%
アセビ	350					350	0.7%
ノリウツギ	300					300	0.6%
ナツツバキ	300					300	0.6%
ネスミモチ	250					250	0.5%
ダンコウハイ	250					250	0.5%
ネスミサシ	250					250	0.5%

	岡山県	鳥取県	島根県	広島県	山口県	供給可能量計(本)	割合
ヤマツツジ	200					200	0.4%
ミヤマウグイスカグラ	200					200	0.4%
イブキシモツケ	200					200	0.4%
チドリノキ	200					200	0.4%
ウリカエデ	200					200	0.4%
キハダ	200					200	0.4%
ミヤマカマスミ	150					150	0.3%
チョウジカマスミ	150					150	0.3%
コハウチワカエデ	150					150	0.3%
リョウブ	100					100	0.2%
ユキノシタ				100		100	0.2%
タムシハ	100					100	0.2%
ヤマウグイスカグラ	100					100	0.2%
カマツカ	100					100	0.2%
ヤブラン	100					100	0.2%
ヤブムラサキ	100					100	0.2%
ヤブニツケイ	100					100	0.2%
フユイチコ	50					50	0.1%
モチツツジ	50					50	0.1%
クマシデ	50					50	0.1%
ウラジロノキ	50					50	0.1%
コミネカエデ	50					50	0.1%
マルハノキ	50					50	0.1%
セトウチキホウシ					40	40	0.1%
総計	47,430	4,700	860	100	40	53,130	100.0%

(9) 九州地方

九州地方では、平成19年10月現在、114種、約4.2万本の地域性苗木が供給可能である（図4.9及び表4.19参照）。

供給可能な植物種は、イロハモミジが最も多く0.2万本となり、九州全体の供給可能量の4.8%を占めている。次いで、クマシデが約0.1万本（3.1%）となっている。

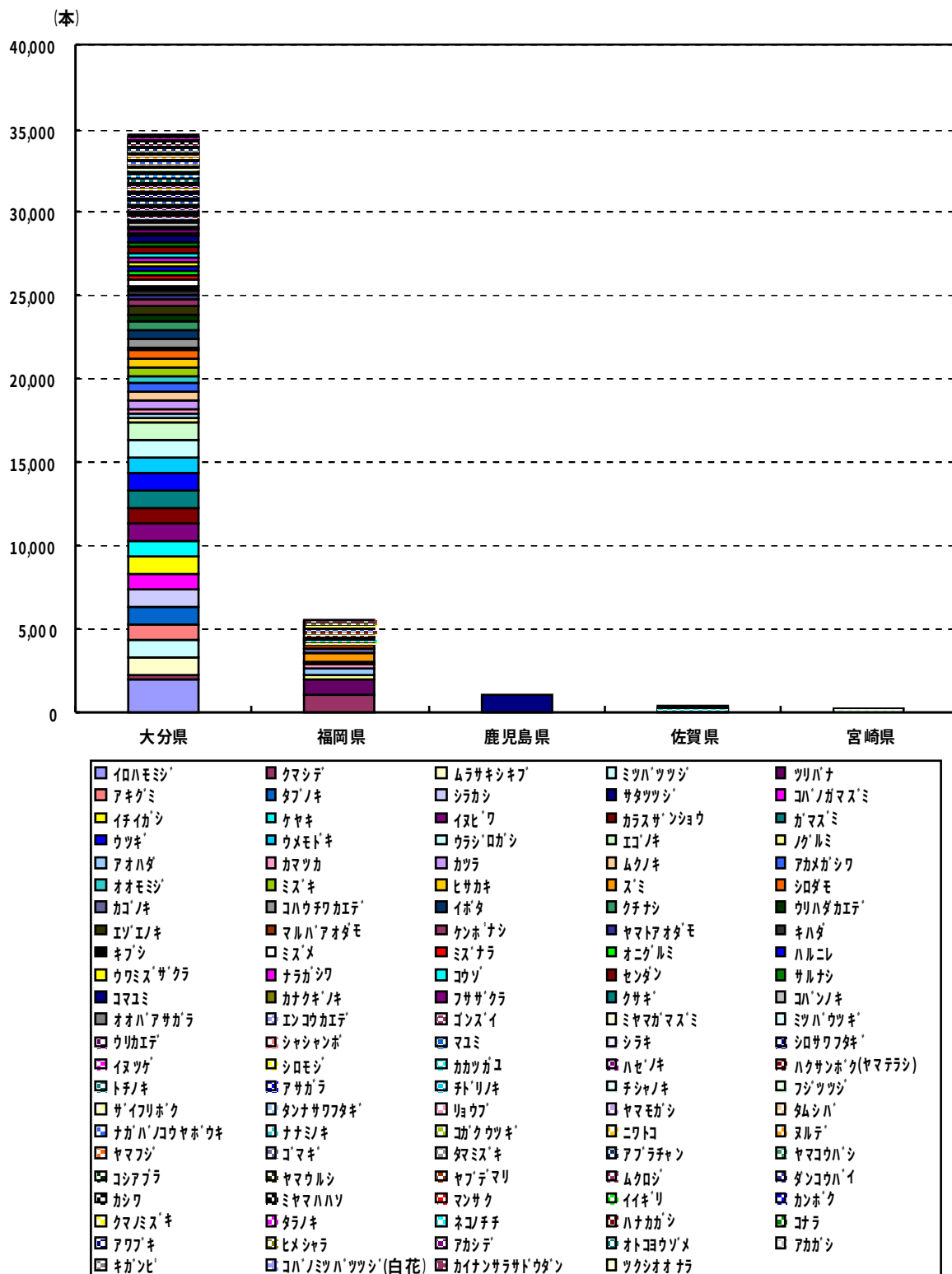


図 4.9 供給可能量 [九州地方]

表 4.19 供給可能量 [九州地方]

	大分県	福岡県	鹿児島県	佐賀県	宮崎県	供給可能量計(本)	割合
イロハモミジ	2,000					2,000	4.8%
クマシデ	300	1,000				1,300	3.1%
ムラサキシキブ	1,000					1,000	2.4%
ミツハツツジ	1,000					1,000	2.4%
ツリハナ		1,000				1,000	2.4%
アキグミ	1,000					1,000	2.4%
タブノキ	1,000					1,000	2.4%
シラカシ	1,000					1,000	2.4%
サタツツジ			1,000			1,000	2.4%
コハノガマスミ	1,000					1,000	2.4%
イチイガシ	1,000					1,000	2.4%
ケヤキ	1,000					1,000	2.4%
イヌビワ	1,000					1,000	2.4%
カラスサンショウ	1,000					1,000	2.4%
ガマスミ	1,000					1,000	2.4%
ウツキ	1,000					1,000	2.4%
ウメモドキ	1,000					1,000	2.4%
ウラジロガシ	1,000					1,000	2.4%
エコノキ	1,000					1,000	2.4%
ノグルミ	300	300				600	1.4%
アオハダ	300	300				600	1.4%
カマツカ	300	300				600	1.4%
カツラ	500	100				600	1.4%
ムクノキ	500					500	1.2%
アカメガシワ	500					500	1.2%
オオモミジ	500					500	1.2%
ミスギ	500					500	1.2%
ヒサカキ	500					500	1.2%
スミ		500				500	1.2%
シロタモ	500					500	1.2%
カゴノキ	200	300				500	1.2%
コハウチワカエデ	500					500	1.2%
イホタ	500					500	1.2%
クチナシ	500					500	1.2%
ウリハダカエデ	500					500	1.2%
エゾエノキ	500					500	1.2%
マルハアオダモ		250		100		350	0.8%
ケンホナシ	300	10				310	0.7%

	大分県	福岡県	鹿児島県	佐賀県	宮崎県	供給可能量計(本)	割合
ヤマトアオダモ	300					300	0.7%
キハダ	300					300	0.7%
キブシ	300					300	0.7%
ミスメ	300					300	0.7%
ミスナラ	300					300	0.7%
オニグルミ	300					300	0.7%
ハルニレ	200	100				300	0.7%
ウワミスサクラ	300					300	0.7%
ナラガシワ	300					300	0.7%
コウゾ	300					300	0.7%
センダン	300					300	0.7%
サルナシ	300					300	0.7%
コマユミ	300					300	0.7%
カナクキノキ	200	15				215	0.5%
フササクラ	200	10				210	0.5%
クサキ	200					200	0.5%
コハシノキ	200					200	0.5%
オオハアサガラ	200					200	0.5%
エンコウカエデ	200					200	0.5%
ゴンスイ	200					200	0.5%
ミヤマカマスミ	200					200	0.5%
ミツハウツキ	200					200	0.5%
ウリカエデ	200					200	0.5%
シャシャンボ	200					200	0.5%
マユミ	200					200	0.5%
シラキ	200					200	0.5%
シロサワフタギ	200					200	0.5%
イヌツゲ	200					200	0.5%
シロモジ	100	100				200	0.5%
カカツガユ		200				200	0.5%
ハゼノキ	200					200	0.5%
ハクサンホク(ヤマテラシ)		200				200	0.5%
トチノキ	200					200	0.5%
アサガラ	200					200	0.5%
チトリノキ	200					200	0.5%
チシャノキ	200					200	0.5%
フジツツジ					170	170	0.4%
サイフリホク	100	50				150	0.4%
タンナサワフタギ	100	30				130	0.3%
リュウブ	100					100	0.2%

	大分県	福岡県	鹿児島県	佐賀県	宮崎県	供給可能量計(本)	割合
ヤマモガシ				100		100	0.2%
タムシハ	100					100	0.2%
ナガハノコウヤボウキ	100					100	0.2%
ナナミノキ	100					100	0.2%
コガクウツキ	100					100	0.2%
ニワトコ	100					100	0.2%
ヌルデ	100					100	0.2%
ヤマフジ	100					100	0.2%
ゴマキ	100					100	0.2%
タマミズキ	100					100	0.2%
アフラチャン	100					100	0.2%
ヤマコウハシ	100					100	0.2%
コシアブラ		100				100	0.2%
ヤマウルシ	100					100	0.2%
ヤブデマリ		100				100	0.2%
ムクロジ	100					100	0.2%
ダンコウバイ		100				100	0.2%
カシワ		100				100	0.2%
ミヤマハハソ	100					100	0.2%
マンサク	100					100	0.2%
イキリ	100					100	0.2%
カンホク		80				80	0.2%
クマノミズキ		70				70	0.2%
タラノキ	50					50	0.1%
ネコノチチ				50		50	0.1%
ハナカガシ	50					50	0.1%
コナラ		50				50	0.1%
アワフキ	50					50	0.1%
ヒメシャラ		50				50	0.1%
アカシデ		50				50	0.1%
オトコヨウゾメ		40				40	0.1%
アカガシ				30		30	0.1%
キカンビ				30		30	0.1%
コハノミツハツツジ(白花)		20				20	0.0%
カイナンサラサドウダン		15				15	0.0%
ツクシオオナラ				10		10	0.0%
総計	34,650	5,540	1,000	320	170	41,680	100.0%

4.1.2 今後の供給可能性と生産・供給に関する現状及び問題点・要望

今後の供給可能性と生産・供給に関する現状及び問題点・要望を確認するため、(社)日本植木協会 地域性苗木生産研究会会員を対象にアンケートを実施し、28社より回答を得た。この結果を以下に示す。

(1) 今後の供給可能性

1) 供給可能性の高い植物

これまでの生産実績等から今後の供給可能性の高い植物に関して、それぞれ上位10種をあげてもらったところ、全部で102種（表 4.20参照）があげられた。このうち、コナラが今後の供給可能性の高い植物種として最も多く、12社があげている。次いでアラカシが10社、タブノキが7社であった。

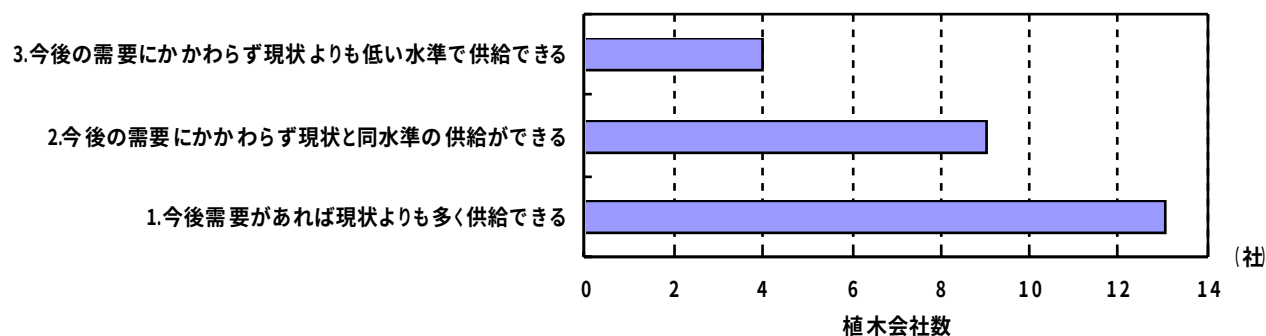
供給可能性の高い植物及び回答した植木会社数の一覧を表 4.20に示す。

表 4.20 供給可能性の高い植物

No	植物種名	植木会社数	No	植物種名	植木会社数	No	植物種名	植木会社数
1	コナラ	12社	34	ミヤマシキミ	2社	67	ハマヒサカキ	1社
2	アラカシ	10社	35	マユミ	2社	68	ヒゴショウ	1社
3	タブノキ	7社	36	クロガネモチ	2社	69	エゾユズリハ	1社
4	ヤマザクラ	6社	37	ヒメユズリハ	2社	70	ヒノキ	1社
5	シラカシ	6社	38	オオヤマザクラ	2社	71	クロモジ	1社
6	クヌギ	6社	39	ヒサカキ	2社	72	エチゼンスイセン	1社
7	エゴノキ	6社	40	ナナカマド	2社	73	ベニヤマザクラ	1社
8	ウバメガシ	6社	41	ナツツバキ	2社	74	ハウノキ	1社
9	ヤマモミジ	5社	42	イヌマキ	2社	75	ホルトノキ	1社
10	ヤマボウシ	5社	43	コバノミツバツツジ	2社	76	マテバシイ	1社
11	ミズナラ	5社	44	ツブラジイ	2社	78	クロバイ	1社
12	イタヤカエデ	4社	45	シイノキ	2社	79	アカエゾマツ	1社
13	ヤマモモ	4社	46	イチイガシ	1社	80	ミツバツツジ	1社
14	ツリバナ	4社	47	コマユミ	1社	81	ミヤコザサ	1社
15	アカガシ	4社	48	シャシャンボ	1社	82	アキグミ	1社
16	イロハモミジ	4社	49	オオモミジ	1社	83	ムクノキ	1社
17	スダジイ	4社	50	シラカバ	1社	84	メグスリノキ	1社
18	シロダモ	4社	51	シラキ	1社	85	カクレミノ	1社
19	コブシ	3社	52	アズキナシ	1社	86	ヤケマハンノキ	1社
20	ケヤキ	4社	53	シロモジ	1社	87	ヤシャブシ	1社
21	ブナ	3社	54	スギ	1社	88	カンザブロウノキ	1社
22	トチノキ	3社	55	セキショウ	1社	89	ヤブツバキ	1社
23	ウラジロガシ	3社	56	アスナロ	1社	90	ガマズミ	1社
24	アカマツ	3社	57	ダンコウバイ	1社	91	カナクギノキ	1社
25	クロマツ	3社	58	エゾヤマザクラ	1社	92	カスミザクラ	1社
26	ヤマツツジ	2社	59	コバンモチ	1社	93	ヤマハンノキ	1社
27	アカシデ	2社	60	エノキ	1社	94	ヤマヒハツ	1社
28	カツラ	2社	61	トドマツ	1社	95	アベマキ	1社
29	ヤブニッケイ	2社	62	トベラ	1社	96	ヤマモガシ	1社
30	ヤチダモ	2社	63	アオダモ	1社	97	アセビ	1社
31	モミノキ	2社	64	コシアブラ	1社	98	イヌシデ	1社
32	カラコギカエデ	2社	65	ネズミモチ	1社	99	抵抗性クロマツ・アカマツ	1社
33	モチツツジ	2社	66	ハマナス	1社			

2) これまでの生産量を基準とした供給可能性

これまでの「地域性苗木」の生産量を基準とした今後の供給可能性については、図 4.10に示すように「今後需要があれば現状よりも多く供給できる」が50%を占めた。次いで「今後の需要にかかわらず現状と同水準で供給できる」が35%、「今後の需要にかかわらず現状よりも低い水準で供給できる」が15%であった。



	1. 今後需要があれば現状よりも多く供給できる	2. 今後の需要にかかわらず現状と同水準の供給ができる	3. 今後の需要にかかわらず現状よりも低い水準で供給できる	計
植木会社数	13社	9社	4社	26社
割合	50%	35%	15%	100%

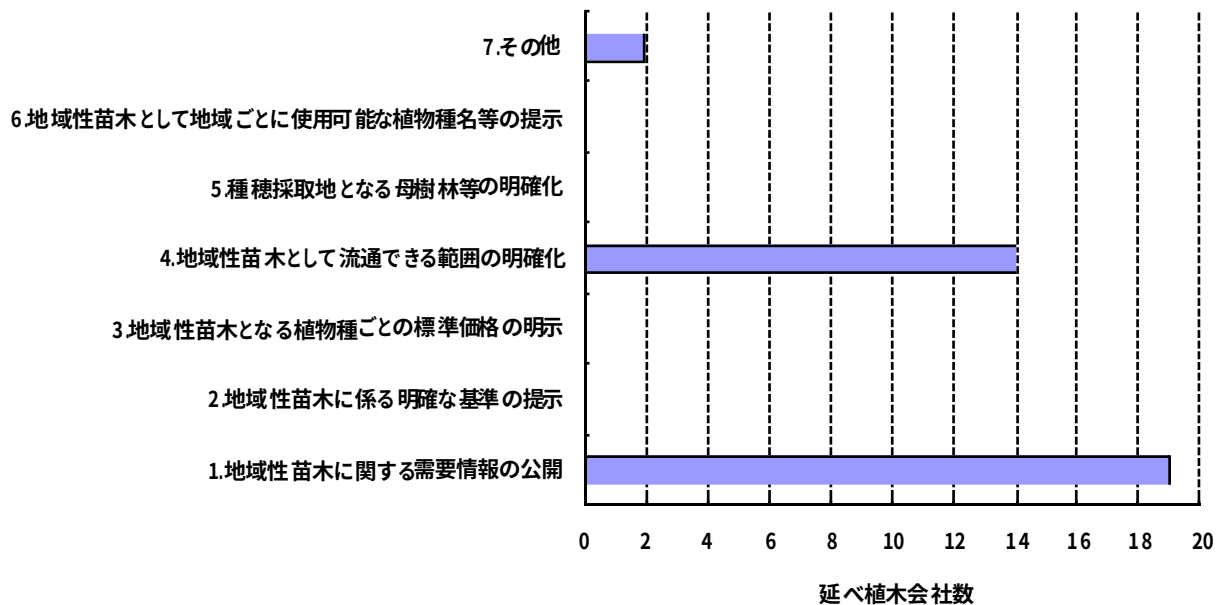
図 4.10 これまでの生産量を基準とした供給可能性

(2) 生産・供給に関する現状及び問題点・要望

1) 地域性苗木の生産促進の条件

今後、地域性苗木の生産を促進するための条件として考えられる事項については、表 4.11 に示すように「地域性苗木に関する需要情報の公開」が19社、次いで、「地域性苗木として流通できる範囲の明確化」が14社、そのほか2社であった。（複数回答）

その他については、「予約生産」などであった。

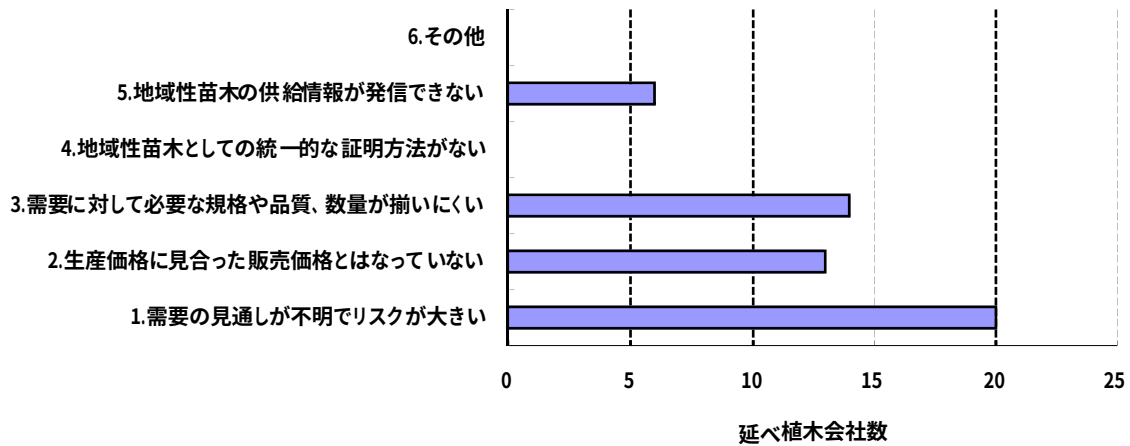


	1.地域性苗木に関する需要情報の公開	2.地域性苗木に係る明確な基準の提示	3.地域性苗木となる植物種ごとの標準価格の明示	4.地域性苗木として流通できる範囲の明確化	5.種穂採取地となる母樹林等の明確化	6.地域性苗木として地域ごとに使用可能な植物種名等の提示	7.その他	計
延べ植木会社数	19社	0社	0社	14社	0社	0社	2社	35社
割合	54%	0%	0%	40%	0%	0%	6%	100%

図 4.11 生産促進の条件

2) 生産・供給の問題点

現状において地域性苗木を生産・供給する上での問題点は、表 4.12に示すように「需要の見通しが不明でリスクが大きい」が最も多く20社、次いで「需要に対して必要な規格や品質、数量が揃いにくい」が14社、「生産価格に見合った販売価格とはなっていない」が13社、「地域性苗木の供給情報が発信できない」が6社であった。



	1.需要の見通しが不明でリスクが大きい	2.生産価格に見合った販売価格とはなっていない	3.需要に対して必要な規格や品質、数量が揃いにくい	4.地域性苗木としての統一的な証明方法がない	5.地域性苗木の供給情報が発信できない	6.その他	計
延べ植木会社数	20社	13社	14社	0社	6社	0社	53社
割合	38%	25%	26%	0%	11%	0%	100%

図 4.12 生産・供給の問題点

3) 生産・供給に関する要望

地域性苗木の生産や供給に際しての要望は、表 4.21に示すように地域性苗木の認定・需給の体制に関する要望が最も多く 6件、情報提供を求める要望が3件、価格に関する要望が3件であった。

表 4.21 生産・供給に関する要望

No	要望	制度・体制	情報	価格	今後検討
1	自社で生産をはじめたばかりなのでこれからよく考えたい。				●
2	作っても売れるかどうか分からないというリスクが大きい点で、なんらかの方法で予約生産が出来れば確実性も高く、リスクが少なくなる。	●			
3	地域性苗木の特質として、供給までに時間がかかる事から受注生産等の形態を取り入れて欲しい	●			
4	元々が地元より種、穂木を採取した生産品に対しての差別化をどうするのか？また、そういった品物に対していかに単価を取り、特別な品物だと理解して買って頂けるのか？また、地域性苗木の条件を余り難しくすると、加入者が少なくなると思う。	●		●	
5	当社は生産者ではなく卸流通社だが、問い合わせはある。ただし、今までは業者発注後に県内産でできるかの問い合わせがほとんどで、その場合、ほとんどが金額的に合わず、また流通がない物と対応するのがほとんどだ。			●	
6	地域性苗木の規格は、通常の苗木の生長と異なる為、別途に規格基準を設け許容範囲も設ける。通常の規格でなく、年数で販売する。(目安として高さなど表示する)発注者及びコンサル会社などに各地域の自生種などもっと知ってもらいたい。	●	●		
7	地域性苗木である証明をしてくれるものがある。役所からの証明等(対抗性マツ等のような)	●			
8	地域性苗木を設計折込の場合の価格の安定を望む。			●	
9	地域内指定苗木を使用する場合、設計者からあるいは発注者からの情報が必要。		●		
10	地域性苗木の需要と供給は、全国展開できることではなくその地方や地域での需給体制を整えていく必要があると考える。	●			
11	需要状況が分かればそれに対応したいと思う。状況提供をお願いします。		●		
		6件	3件	3件	1件

4.2 (社) 日本種苗協会における供給体制の現状

(社) 日本種苗協会に関しては、同協会の芝・牧草部会会員7種苗会社に対してアンケート調査を実施し、平成18年度における地域性在来緑化植物の供給実績や、今後の供給可能性と地域性在来緑化植物の生産・供給に関する現状の確認を行った。

以下にこれらの結果を整理する。

4.2.1 供給実績

(1) 供給種苗

平成18年度において供給実績のある地域性在来緑化植物の種苗は193種（548.275kg・234,272株）あり、その内訳は木本90種（148.275 kg・43,280株）、草本103種（400 kg・185,992株）である。供給種苗種及び供給量の一覧を表 4.22、表 4.23に示す。

表 4.22 供給種苗(木本)

No.	植物種	供給量		No.	植物種	供給量	
		Kg	株			Kg	株
1	アオダモ		1,000	46	ダケカンバ		1,300
2	アカエゾマツ		1,400	47	タニウツギ		1,000
3	アカメガシワ	3.3		48	タラノキ	0.6	820
4	アキグミ		1,000	49	チョウセンゴミシ		50
5	アズキナシ		少量	50	ツノハシバミ	0.05	
6	アブラチャン	1.1		51	ツリバナ		540
7	イタヤカエデ		200	52	ツルアジサイ		50
8	イヌエンジュ		50	53	ツルウメモドキ		840
9	イボタ		260	54	トドマツ		120
10	イワガラミ		160	55	ドロノキ		420
11	ウコンウツギ		120	56	ナナカマド		770
12	ウダイカンバ		270	57	ヌルデ	26.2	60
13	ウツギ	5.6		58	ノブドウ		180
14	ウリノキ		少量	59	ノリウツギ		790
15	ウワミズザクラ		少量	60	ハイマツ		430
16	エゾシモツケ		200	61	ハウチワカエデ		250
17	エゾニワトコ		70	62	ハクウンボク		290
18	エゾヤマザクラ		290	63	ハシドイ		340
19	エゾヤマハギ		1,100	64	バッコヤナギ		120
20	オオツリバナ		340	65	ハマナス		5,200
21	オオバアサガラ	1.6		66	ハルニレ		5,400
22	オニグルミ		少量	67	ヒメヤシャブシ		110
23	オヒョウ		960	68	フサザクラ	3.4	
24	カシワ		250	69	ブナ		520
25	カツラ		960	70	ホオノキ		少量
26	ガマズミ		100	71	ホザキシモツケ		860

No.	植物種	供給量		No.	植物種	供給量	
		Kg	株			Kg	株
27	カラコギカエデ		230	72	ホザキナナカマド		520
28	カンボク		660	73	マタタビ		少量
29	キタコブシ		70	74	マユミ		140
30	キハダ		110	75	マルバシモツケ		1,100
31	キブシ	4.2		76	ミズキ		600
32	クサギ	0.025		77	ミズナラ		970
33	クリ		少量	78	ミツバウツギ		120
34	ケヤマウコギ		170	79	ミネヤナギ		250
35	ケヤマハンノキ		1,740	80	ミヤマガマズミ		190
36	コクワ		少量	81	ミヤマハンノキ		1,100
37	コナラ		230	82	ミヤママタタビ		120
38	コバノヤマハンノキ		50	83	ヤシャブシ	0.9	
39	コマツナギ	100		84	ヤチダモ		2,200
40	コマユミ		少量	85	ヤチハンノキ		1,100
41	サワグルミ		340	86	ヤマグワ		110
42	シウリザクラ		100	87	ヤマブドウ		少量
43	シナノキ		490	88	ヤマモミジ		150
44	シラカバ	0.8	890	89	リョウブ	0.5	
45	ズミ		270	90	フタゲカマツカ		70
計				148.275Kg 43,280株			

(平成18年度末現在)

表 4.23 供給種苗(草本)

No.	植物種	供給量		No.	植物種	供給量	
		Kg	株			Kg	株
1	アキノキリンソウ		350	53	サジオモダカ		100
2	アヤメ		700	54	サドスゲ		960
3	イタドリ	150		55	サワシバ		360
4	イワヨモギ		120	56	サンカクイ		130
5	ウツボグサ		2,660	57	ジジバリ		120
6	ウド		150	58	シナノキンバイソウ		少量
7	ウマノアシガタ		26,962	59	シラネアオイ		1,700
8	ウラジロイチゴ		160	60	シロバナタンポポ		29,100
9	ウンラン		340	61	シロヨモギ		330
10	エゾエンゴサク		少量	62	ススキ		少量
11	エゾオヤマリンドウ		少量	63	スマレ類		15,720
12	エゾカワラナデシコ		250	64	セリ		460
13	エゾカワラマツバ			65	センダイハギ		900
14	エゾキケマン		少量	66	チガヤ		4,800
15	エゾゴマナ		60	67	ツルヨシ		600
16	エゾノカワラマツバ		780	68	トリアシショウマ		少量
17	エゾノキリンソウ		690	69	ナガサキシヤジン		2,885
18	エゾノコンギク		170	70	ナワシロイチゴ		370
19	エゾノハナシノブ		230	71	ノアザミ		1,100
20	エゾミソハギ		7,000	72	ノウゴウイチゴ		330
21	エゾムラサキ		少量	73	ノコギリソウ		1,100
22	エゾヨモギ(オオヨモギ・ヤマヨモギ)			74	ノコンギク		1,200
23	オオイタドリ			75	ハナウド		20
24	オオウシノケグサ			76	ハマエンドウ		220
25	オオカサスゲ		1,500	77	ハマニンニク		110
26	オカトラノオ		1,370	78	ハマハタザオ		80
27	オガラバナ		少量	79	ハマヒルガオ		少量
28	オギ		120	80	ハマボウフウ		少量
29	オトギリソウ		少量	81	ヒメシラスゲ		470
30	オトコエシ		3,730	82	ヒラギシスゲ		少量
31	オトコヨモギ			83	ビレオギク		250
32	オヘビイチゴ		9,570	84	ビロードスゲ		240
33	オミナエシ		14,380	85	ヒロハクサフジ		50
34	カキドウシ		370	86	フクジュソウ		60
35	カサスゲ		120	87	フトイ		370
36	カセンソウ		390	88	ヘビイチゴ		少量

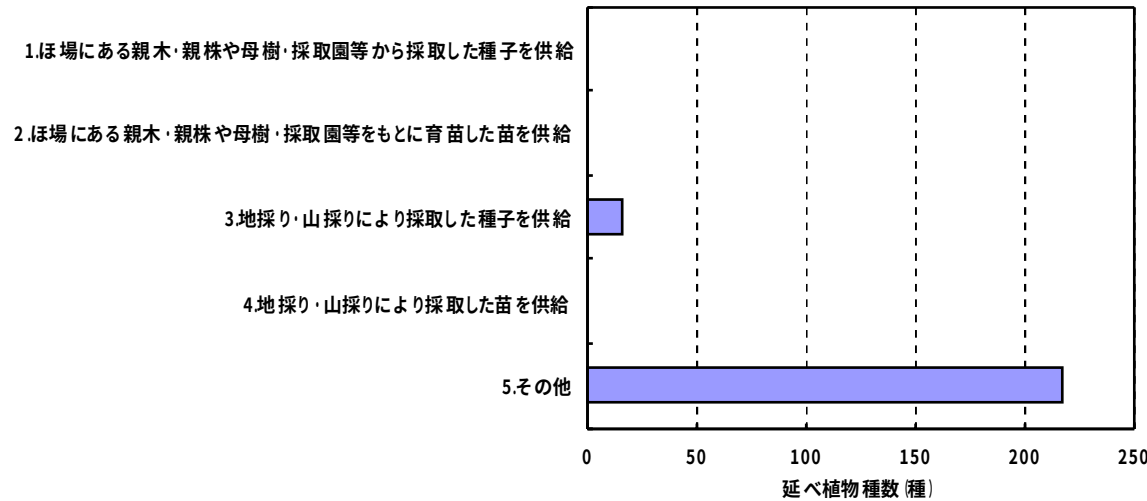
No.	植物種	供給量		No.	植物種	供給量	
		Kg	株			Kg	株
37	カタクリ		少量	89	マコモ		70
38	カノコソウ		15	90	マルバキンレイカ		140
39	ガマ		1,400	91	ミクリ		200
40	カワミドリ		2,820	92	ミツガシワ		少量
41	カワラナデシコ		2,120	93	ミヤコグサ		2,050
42	キキョウ		3,000	94	ミヤマラッキョウ		少量
43	ギョウジャニンニク		100	95	ムラサキシキブ		710
44	キンミズヒキ		少量	96	ヤナギラン		570
45	クガイソウ		少量	97	ヤマアワ		少量
46	クサフジ		少量	98	ヤマハハコ		310
47	ゲンノショウコ		100	99	ヨシ		11,000
48	コウボウムギ		70	100	ヨツバヒヨドリ		少量
49	コオニユリ		8,080	101	ヨメナ		5,060
50	コハマギク		120	102	ヨモギ	250	
51	コメススキ			103	リンドウ		11,750
52	コンロンソウ		少量	計		400Kg	185,992株

(平成18年度末現在)

(2) 供給種苗ごとの供給方法

供給種苗ごとの供給方法は、図 4.13に示すように「地採り・山採りにより採取した種子を供給」した植物種が7%、「その他」が93%となっている。

「その他」の内訳は、「山採りした種子から圃場で育苗したPot苗」が90%（のべ172種）、
「山採りした種子から育苗し、採種圃場で育成したものから採種」した種が10%（のべ20種）
という比率となっている。



	1.ほ場にある親木・親株や母樹・採取園等から採取した種子を供給	2.ほ場にある親木・親株や母樹・採取園等をもとに育苗した苗を供給	3.地採り・山採りにより採取した種子を供給	4.地採り・山採りにより採取した苗を供給	5.その他	計
延べ植物種数	0種	0種	16種	0種	217種	233種
割合	0%	0%	7%	0%	93%	100%

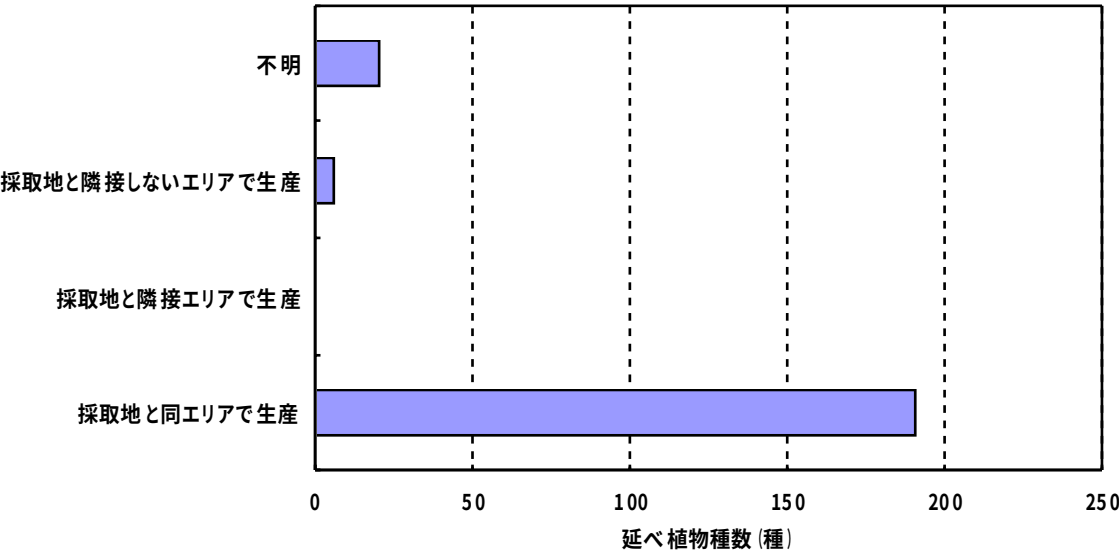
図 4.13 供給種苗ごとの供給方法

(3) 種穂採取地と育成場所

「ほ場にある親木・親株や母樹・採取園等から採取した種子を供給」した場合と、「ほ場にある親木・親株や母樹・採取園等をもとに育苗（実生・挿し木）した苗を供給」した場合について、供給種苗ごとの種穂の採取地と育成場所の関係を整理した（図 4.14参照）。

この整理にあたっては、都道府県界を基準に区分を行い、「採取地と同じ都道府県で生産」、「採取地と隣接する都道府県で生産」、「採取地と隣接しない都道府県で生産」に分類した。

採取地と同エリアで生産した植物種は、供給種苗全体の88%、隣接エリアで生産した植物種が0%、隣接しないエリアで生産した植物種が3%、不明が9%であった。



	採取地と同じ都道府県で生産	採取地と隣接する都道府県で生産	採取地と隣接しない都道府県で生産	不明	合計
延べ植物種数	191種	0種	6種	20種	217種
割合	88%	0%	3%	9%	100%

図 4.14 種穂採取地と育成場所

4.2.2 今後の供給可能性

今後、供給可能と考えられる植物種については、2社より具体的な種名の回答を得た。また、需要があれば現状よりも多く供給できるとした植物種は4種、増殖試験中とした植物種が14種であった。

具体的な種名については以下の表 4.24に示す。

この他、予約生産を基本とすると回答した種苗会社が1社、不明1社、可能性がないと回答した種苗会社が2社であった。

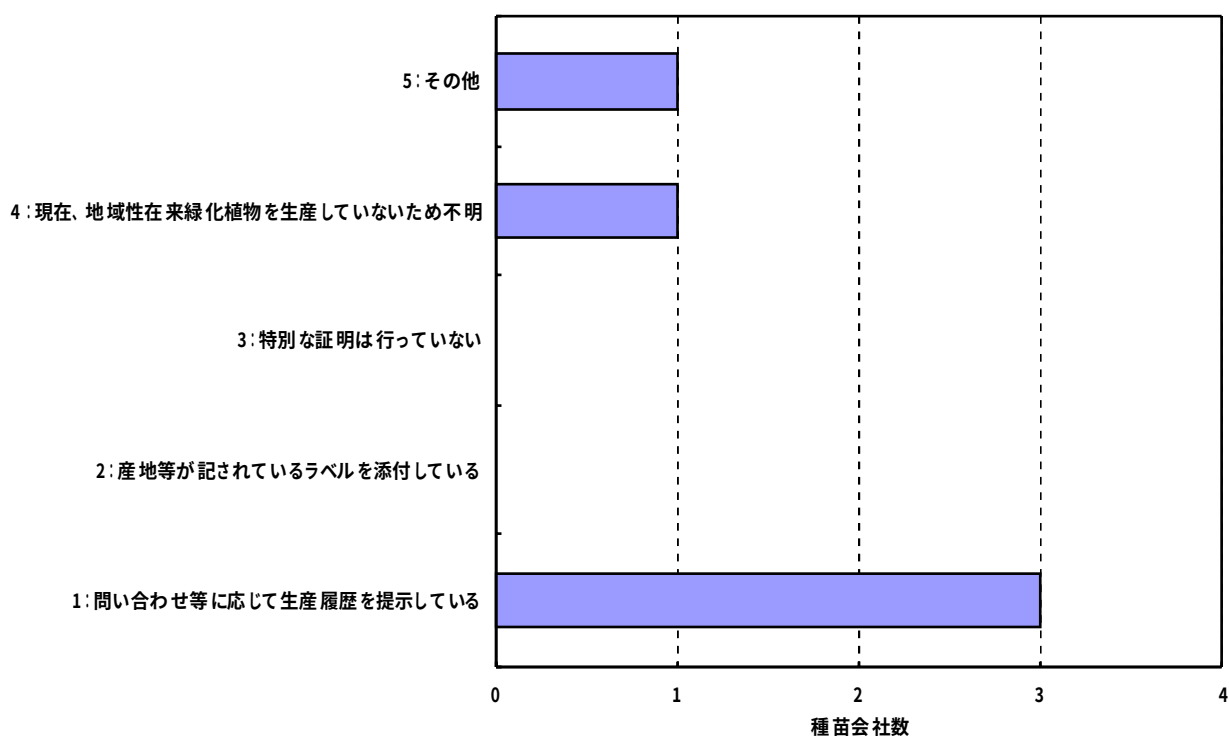
表 4.24 供給可能性

	今後需要があれば現状よりも多く供給できる	増殖試験中	供給可能量
イタドリ	○		150 kg
ヨモギ	○		250 kg
ススキ	○		10 kg
コマツナギ	○		100 kg
イワノガリヤス		○	
ノガリヤス		○	
ヒメノガリヤス		○	
ハネガヤ		○	
アキノキリンソウ		○	
コウゾリナ		○	
ハチジョウウナ		○	
ヤナギタンポポ		○	
ヤマハハコ		○	
クサイ		○	
ネズミガヤ		○	
コウボウ		○	
ホッスガヤ		○	
カワラハハコ		○	

4.2.3 地域性在来緑化植物の生産・供給に関する現状及び問題点・要望

(1) 地域性在来緑化植物の証明方法

各事業者で供給している緑化植物を「地域性在来緑化植物」として証明するために、現在取り組んでいる内容については、「問い合わせ等に応じて生産履歴を提示している」が3社、「生産していないため不明」が1社、その他（採取地で保管し、そのまま納入。弊社保管の場合は採取地を記入して納入）が1社であった（図 4.15参照）。



	1: 問い合わせ等 に応じて生産履 歴を提示している	2: 産地等が記さ れているラベル を添付している	3: 特別な証明は 行っていない	4: 現在、地域性 在来緑化植物を 生産していないた め不明	5: その 他	計
種苗会社数	3社	0社	0社	1社	1社	5社
割合	60%	0%	0%	20%	20%	100%

図 4.15 地域性在来緑化植物の証明方法

(2) 地域性在来緑化植物の供給方式

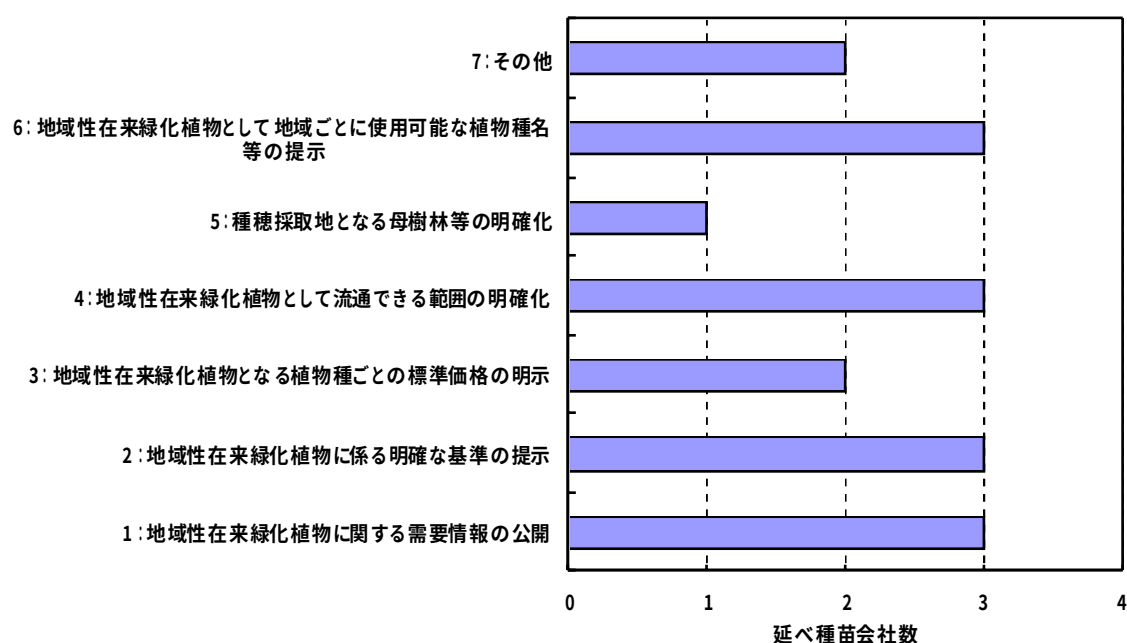
各事業者において、これまで供給している地域性在来緑化植物の総量を10とし、供給方式を「委託生産」と「市場生産」に分けた場合の生産方式別の生産比率については、「委託生産：市場生産＝10：0」が3社、「委託生産：市場生産＝8：2」が1社であった。

(3) 地域性在来緑化植物の供給を促進する条件

今後、地域性在来緑化植物の供給を促進するための条件として考えられる事項については、7社中3社が複数回答、1社単数回答、3社未回答となっており、図 4.16に示すように「1：地域性在来緑化植物に関する需要情報の公開」、「2：地域性在来緑化植物に係る明確な基準の提示」、「4：地域性在来緑化植物として流通できる範囲の明確化」、「6：地域性在来緑化植物として地域ごとに使用可能な植物種名等の提示」を条件とする場合がそれぞれ3社であった。

次いで、「3：地域性在来緑化植物となる植物種ごとの標準価格の明示」「7：その他」の場合がそれぞれ2社、「5：種穂採取地となる母樹林等の明確化」が1社であった。

その他については、「品質検定・品質維持・価格・採取量等の問題があり、弊社では供給促進は難しい」が1社、「発注者の積極的な設計折込、導入植物のモニタリングの実施と公開」が1社であった。

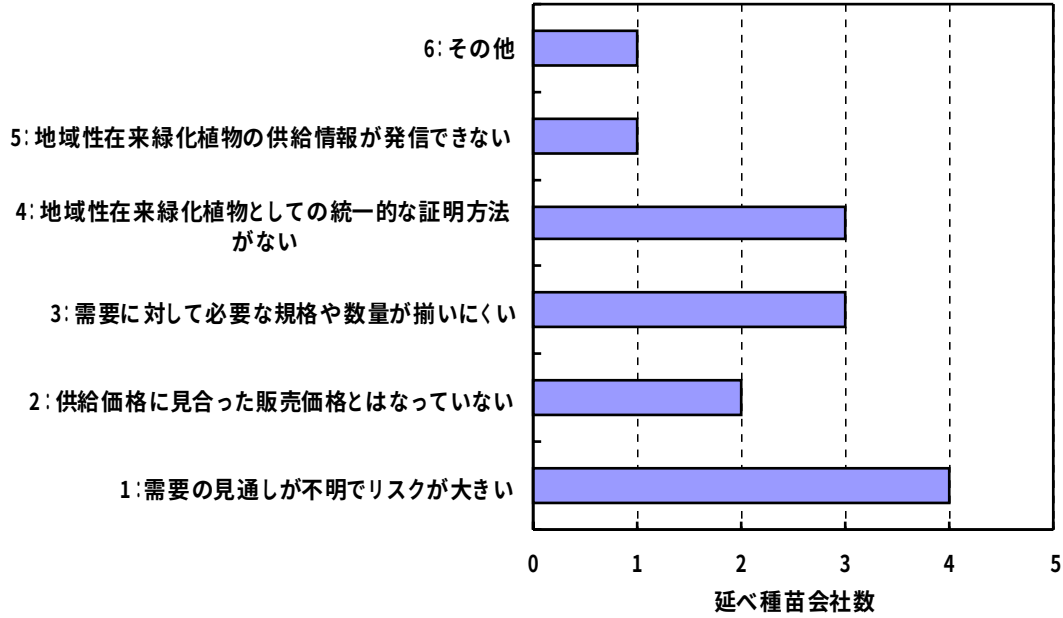


	1:地域性在来緑化植物に関する需要情報の公開	2:地域性在来緑化植物に係る明確な基準の提示	3:地域性在来緑化植物となる植物種ごとの標準価格の明示	4:地域性在来緑化植物として流通できる範囲の明確化	5:種穂採取地となる母樹林等の明確化	6:地域性在来緑化植物として地域ごとに使用可能な植物種名等の提示	7:その他	計
延べ種苗会社数	3社	3社	2社	3社	1社	3社	2社	17社
割合	18%	18%	12%	18%	6%	18%	12%	100%

図 4.16 供給を促進する条件

(4) 地域性在来緑化植物の生産・供給上の問題点

現状において地域性在来緑化植物を生産・供給する上での問題点については、7社中4社が複数回答、1社単数回答、2社未回答となっており、図 4.17に示すように「需要の見通しが不明でリスクが大きい」が最も多く29%、次いで「需要に対して必要な規格や数量が揃いにくい」、「地域性在来緑化植物としての統一的な証明方法がない」がそれぞれ21%であった。



	1: 需要の見通しが不明でリスクが大きい	2: 供給価格に見合った販売価格とはなっていない	3: 需要に対して必要な規格や数量が揃いにくい	4: 地域性在来緑化植物としての統一的な証明方法がない	5: 地域性在来緑化植物の供給情報が発信できない	6: その他	計
延べ種苗会社数	4社	2社	3社	3社	1社	1社	14社
割合 (%)	29%	14%	21%	21%	7%	7%	100%

図 4.17 生産・供給上の問題点

(5) 地域性在来緑化植物の生産・供給に係る要望

地域性在来緑化植物の生産や供給に際しての要望については、証明機関の必要性や発芽条件等の基準の新設、外国産在来種との差別化、業務発注のシステム構築があげられた。詳細を表 4.25に示す。

表 4.25 生産・供給に係る要望

要望
単に採種地でなく、遺伝的に地域性植物であることの証明機関が必要
発芽条件を満たす種子の生産が困難
採種増殖にコストがかかり割高になるため、受注生産以外はリスクが高く、在庫が難しい 苗生産には2～3年、大量の種子増殖には3～4年かかるため、新たな地域、種類では数年前からの受注生産、または採種・育苗のそれぞれの業務発注が必要
発芽率、発芽勢など品質が一定でないため、流通品種とは別の基準が必要
外国産在来種との差別化が必要

4.3 全国山林種苗協同組合連合会における供給体制の現状

全国山林種苗協同組合連合会では、広葉樹トレーサビリティ事業を実施しており、この事業に基づき認定された生産者により種穂の採取地等が明らかな広葉樹苗木の生産に取り組んでいる。

以下に、広葉樹トレーサビリティ事業に基づき生産されている広葉樹苗木の生産見込み量について整理する。

4.3.1 認定登録者の状況

本事業において認定された苗木生産者は、平成19年3月末現在で18県 119名である（表 4.26 参照）。

表 4.26 広葉樹苗木生産に係る認定者数

	平成17年度 登録者数(人)	平成18年度 登録者数(人)	計 (人)		平成17年度 登録者数(人)	平成18年度 登録者数(人)	計 (人)
北海道	0	0	0	京都府	0	0	0
青森県	3	0	3	大阪府	0	0	0
岩手県	7	0	7	兵庫県	0	0	0
宮城県	3	0	3	奈良県	0	0	0
秋田県	1	6	7	和歌山県	0	0	0
山形県	0	0	0	鳥取県	5	0	5
福島県	0	0	0	島根県	0	0	0
茨城県	5	0	5	高知県	0	10	10
栃木県	0	0	0	愛媛県	11	0	11
群馬県	0	10	10	岡山県	1	1	2
埼玉県	0	0	0	広島県	1	0	1
千葉県	0	0	0	山口県	0	0	0
東京都	0	0	0	徳島県	0	0	0
神奈川県	0	5	5	香川県	0	0	0
新潟県	0	6	6	愛媛県	11	0	11
富山県	0	1	1	高知県	0	10	10
石川県	0	0	0	福岡県	0	0	0
福井県	0	4	4	佐賀県	0	0	0
山梨県	0	0	0	熊本県	0	0	0
長野県	0	0	0	大分県	0	0	0
岐阜県	19	0	19	宮崎県	0	17	17
静岡県	0	0	0	鹿児島県	0	0	0
愛知県	3	0	3	沖縄県	0	0	0
三重県	0	0	0	登録者数計	59	60	119

(平成18年度末現在)

4.3.2 生産見込み量

本事業の登録認定時における生産見込み量は、およそ430万本となっており、樹種別の生産見込み量はコナラが約97万本と最も多く、次いでケヤキの約77万本となっている（表 4.27 参照）。

表 4.27 認定登録者による生産見込み量

樹種	生産見込み量（本）	樹種	生産見込み量（本）
コナラ	976,900	カシワ	10,100
ケヤキ	768,350	イヌエンジュ	9,700
クヌギ	612,910	アラカシ	8,000
ブナ	365,040	ホオノキ	7,820
ヤマザクラ	256,580	センダン	6,500
ミズナラ	161,560	ヤマハンノキ	5,900
ヤシャブシ	124,300	サワグルミ	5,500
エンジュ	96,500	ナナカマド	5,500
クリ	93,500	イチヨウ	4,100
ヤマボウシ	84,710	キハダ	3,730
ヤマグリ	83,430	モミジ	3,700
トチノキ	67,300	イチイガシ	3,100
イタヤカエデ	67,100	タブ	3,000
カツラ	62,900	ヤマハギ	3,000
アオダモ	56,000	アカシア	3,000
シバグリ	52,500	トゲナシニセアカシヤ	2,500
イロハモミジ	47,930	シオジ	2,070
アキグミ	37,100	アベマキ	2,000
イタチハギ	37,000	ツブラジイ	2,000
ヤマモミジ	33,800	ミヤマヤシャブシ	1,920
エゴノキ	30,000	ヒメシャラ	1,350
シラカシ	24,600	オオシマザクラ	1,000
クスノキ	21,000	ミズメ	1,000
オオヤマザクラ	19,000	ミズキ	800
ヤチダモ	18,700	エノキ	500
ウバメガシ	14,500	ケグワ	300
ハンノキ	12,200	ソヨゴ	0
		総計（本）	4,323,500

（平成18年度末現在）

4.3.3 地方別の生産見込み量

認定生産者が生産している広葉樹苗木の生産見込み量について、地方別に整理する。

(1) 東北地方

東北地方では、31種の広葉樹苗木の生産が見込まれており、その量は約135万本となっている(図 4.18及び表 4.28参照)。

東北地方内では、秋田県内で種穂等を採取した広葉樹苗木の生産見込み量が最も多く約74万本、次いで岩手県内で種穂等を採取したものが約49万本となっており、この2県で東北地方全体の生産見込み量の約9割を占めている。

また、生産が見込まれている植物種は、コナラが最も多く約36万本(27%)となっている。次いで多く生産が見込まれている植物種は、ブナが約22万本(16%)、ケヤキが約14万本(11%)となっている。

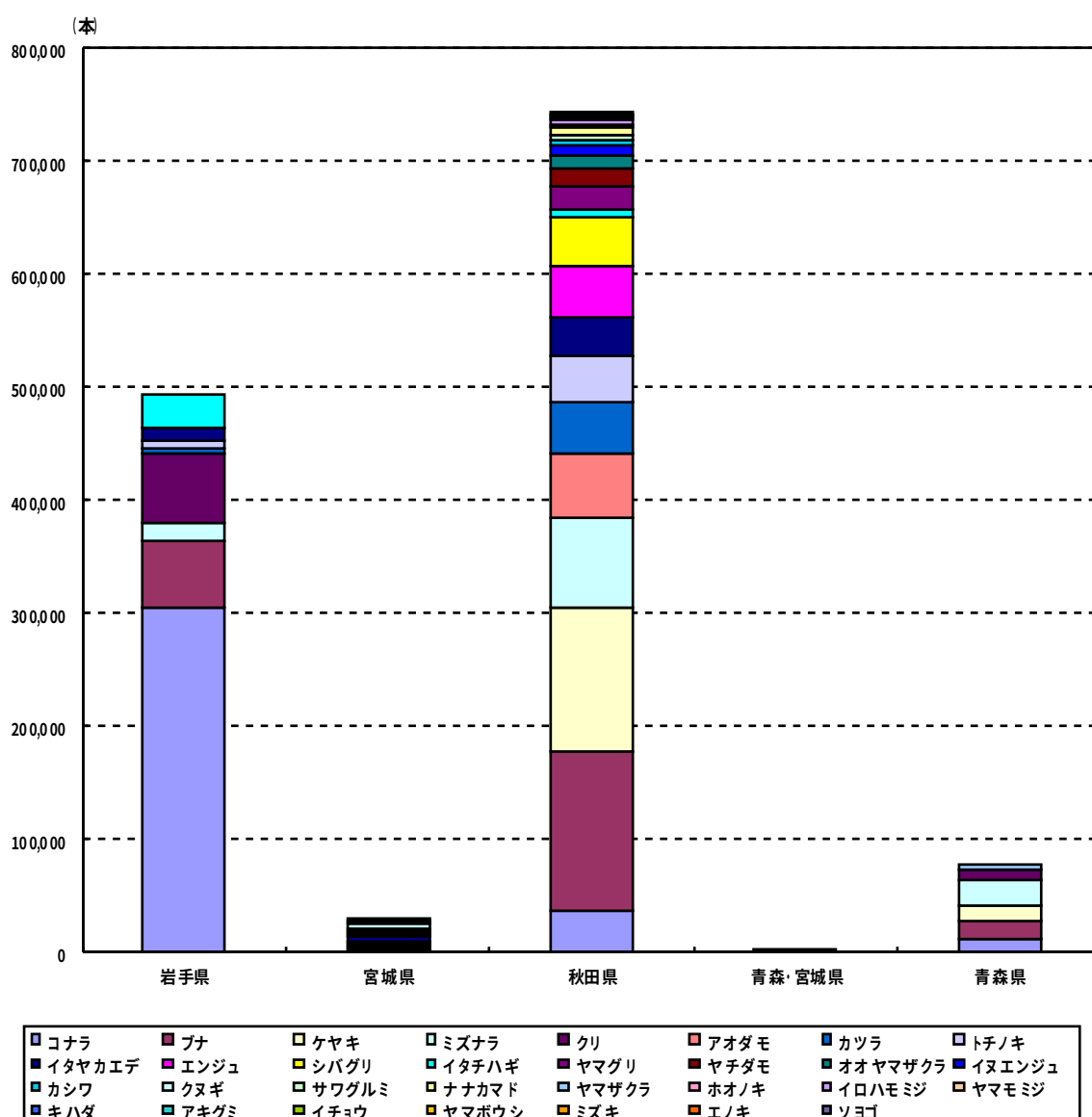


図 4.18 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量〔東北地方〕

表 4.28 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [東北地方]

	岩手県	宮城県	秋田県	青森・宮城県	青森県	生産見込み量(本)	割合
コナラ	305,000	3,000	37,000		12,000	357,000	27%
ブナ	58,000		141,000	2,500	15,000	216,500	16%
ケヤキ		2,900	127,000		14,000	143,900	11%
ミズナラ	15,000		80,000		22,500	117,500	9%
クリ	62,000	1,000			10,500	73,500	5%
アオダモ		1,000	55,000			56,000	4%
カツラ	5,000	1,500	47,000			53,500	4%
トチノキ	8,000		40,000			48,000	4%
イタヤカエデ	10,000	3,100	34,000			47,100	3%
エンジュ		500	45,000			45,500	3%
シバグリ			45,000			45,000	3%
イタチハギ	30,000	2,000	5,000			37,000	3%
ヤマグリ			22,000			22,000	2%
ヤチダモ			16,000			16,000	1%
オオヤマザクラ		4,000	10,000			14,000	1%
イヌエンジュ		500	9,200			9,700	1%
カシワ		1,000	5,000			6,000	0%
クヌギ		5,500				5,500	0%
サワグルミ			5,500			5,500	0%
ナナカマド			5,500			5,500	0%
ヤマザクラ		500			4,000	4,500	0%
ホオノキ		700	3,000			3,700	0%
イロハモミジ			3,000			3,000	0%
ヤマモミジ			2,500			2,500	0%
キハダ			2,000			2,000	0%
アキグミ			2,000			2,000	0%
イチョウ			2,000			2,000	0%
ヤマボウシ		1,000				1,000	0%
ミズキ		800				800	0%
エノキ		500				500	0%
ソヨゴ		0				0	0%
生産見込み量(本)	493,000	29,500	743,700	2,500	78,000	1,346,700	
割合	37%	2%	55%	0%	6%		

(平成18年度末現在)

(2) 関東地方

関東地方では、22種の広葉樹苗木の生産が見込まれており、その量は約75万本となっている(図 4.19及び表 4.29参照)。

関東地方のうち、群馬県内で種穂等を採取した広葉樹苗木が最も多い生産見込み量となっており、約37万本(50%)となっている。

樹種別では、コナラが約33万本(44%)と最も多い生産見込み量となっており、次いでケヤキ、クヌギがそれぞれ約9万本(12%)となっている。

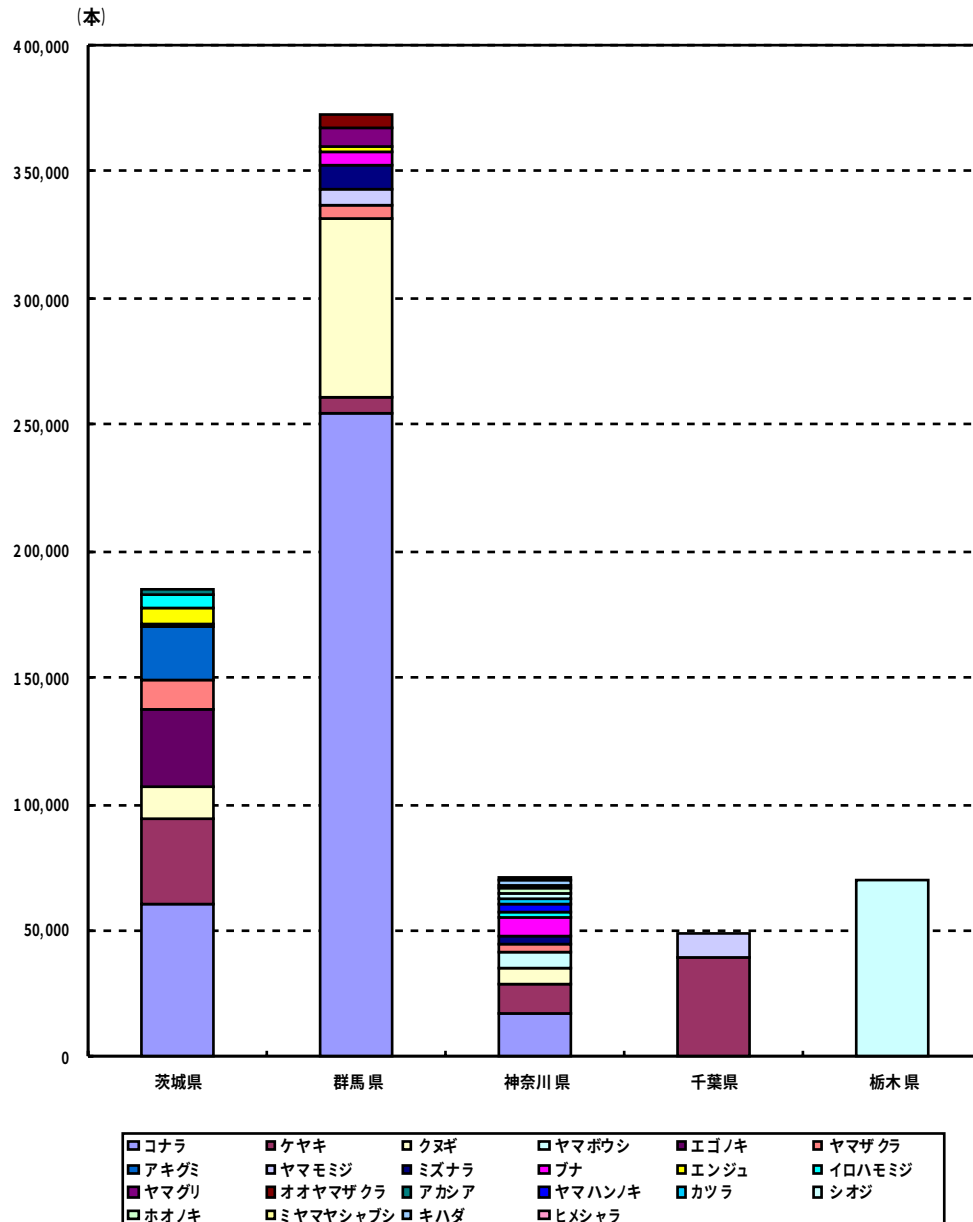


図 4.19 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量【関東地方】

表 4.29 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量〔関東地方〕

	茨城県	群馬県	神奈川県	千葉県	栃木県	生産見込み量(本)	割合
コナラ	60,000	254,000	17,600			331,600	44%
ケヤキ	33,500	7,000	11,450	39,000		90,950	12%
クヌギ	13,500	70,000	6,310			89,810	12%
ヤマボウシ			5,610		70,000	75,610	10%
エゴノキ	30,000					30,000	4%
ヤマザクラ	12,500	5,000	4,080			21,580	3%
アキグミ	20,000					20,000	3%
ヤマモミジ	2,000	7,000		10,000		19,000	3%
ミズナラ		10,000	2,760			12,760	2%
ブナ		5,000	6,640			11,640	2%
エンジュ	6,000	2,000				8,000	1%
イロハモミジ	5,000		2,930			7,930	1%
ヤマグリ		7,000				7,000	1%
オオヤマザクラ		5,000				5,000	1%
アカシア	3,000					3,000	0%
ヤマハンノキ			2,900			2,900	0%
カツラ			2,300			2,300	0%
シオジ			2,070			2,070	0%
ホオノキ			1,920			1,920	0%
ミヤマヤシャブシ			1,920			1,920	0%
キハダ			1,730			1,730	0%
ヒメシャラ			1,350			1,350	0%
生産見込み量(本)	185,500	372,000	71,570	49,000	70,000	748,070	100%
割合	25%	50%	10%	7%	9%	100%	

(平成18年度末現在)

(3) 北陸地方

北陸地方では、14種の広葉樹苗木の生産が見込まれており、その量は約17万本となっている(図 4.20及び表 4.30参照)。

北陸地方のうち、新潟県内で種穂等を採取した広葉樹苗木の生産見込み量が最も多く約13万本となり、北陸全体の約8割を占めている。次いで、福井県内で種穂等を採取したものが約3万本(18%)、富山県内で種穂等を採取したものが1万本(6%)となっている。

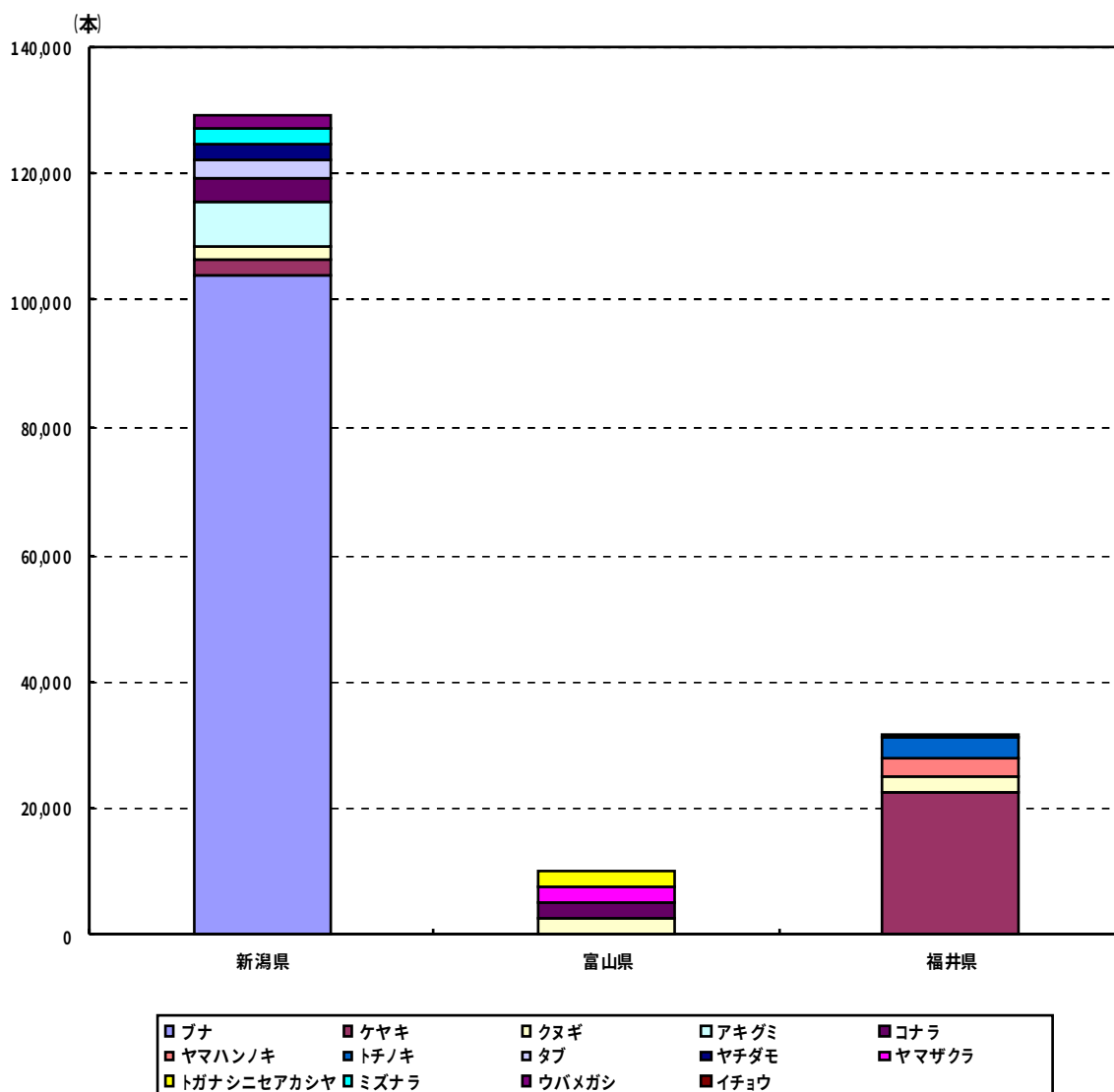


図 4.20 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [北陸地方]

表 4.30 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [北陸地方]

	新潟県	富山県	福井県	生産見込み量(本)	割合
ブナ	104,000			104,000	61%
ケヤキ	2,300		22,500	24,800	15%
クヌギ	2,300	2,500	2,500	7,300	4%
アキグミ	7,000			7,000	4%
コナラ	3,500	2,500		6,000	4%
ヤマハンノキ			3,000	3,000	2%
トチノキ			3,000	3,000	2%
タブ	3,000			3,000	2%
ヤチダモ	2,700			2,700	2%
ヤマザクラ		2,500		2,500	1%
トガナシニセアカシヤ		2,500		2,500	1%
ミズナラ	2,500			2,500	1%
ウバメガシ	2,000			2,000	1%
イチョウ			600	600	0%
生産見込み量(本)	129,300	10,000	31,600	170,900	100%
割合	76%	6%	18%	100%	

(平成18年度末現在)

(4) 中部地方

中部地方では、16種の広葉樹苗木の生産が見込まれており、その量は約60万本となっている(図 4.21及び表 4.31参照)。

中部地方のうち、長野県内で種穂等を採取した広葉樹苗木が最も多い生産見込み量となっており、約38万本(63%)となっている。次いで、岐阜県内で種穂等を採取したものが約14万本(23%)、愛知県内で種穂等を採取したものが約8万本(13%)となっている。

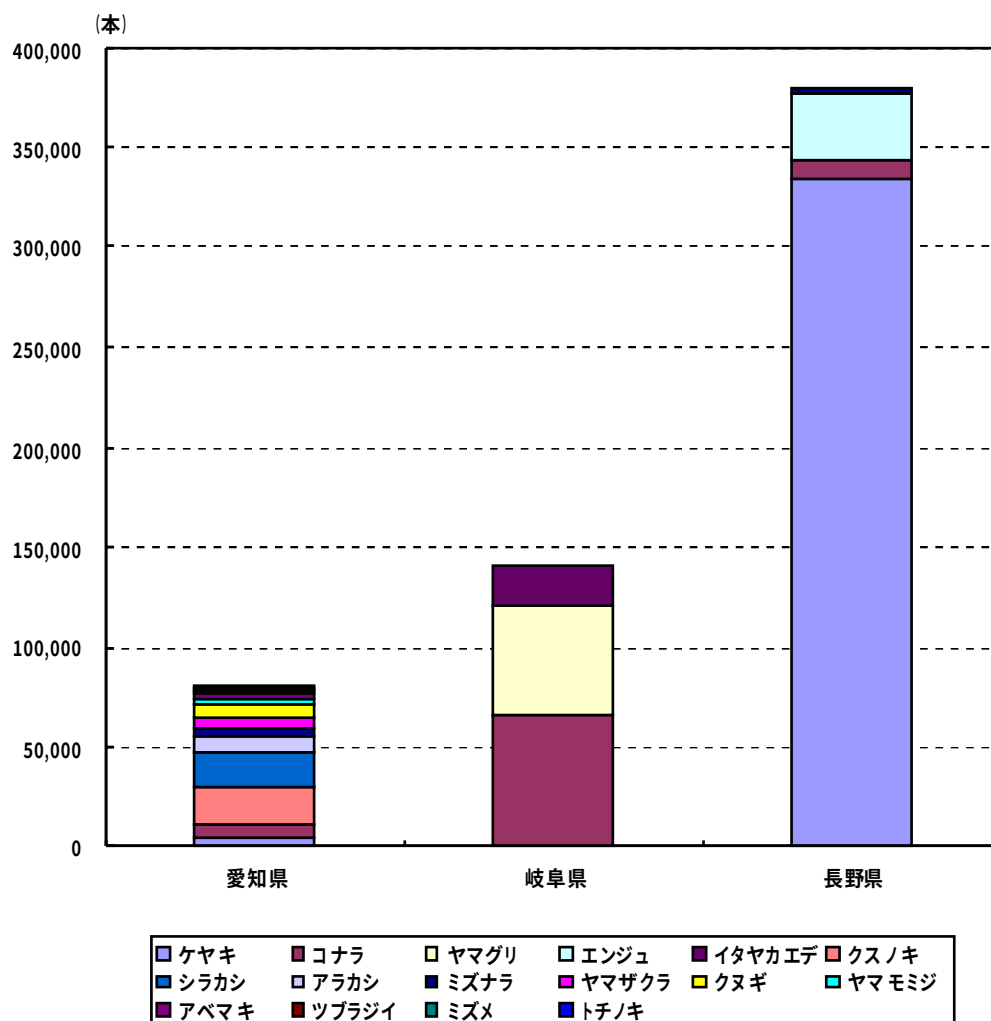


図 4.21 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [中部地方]

表 4.31 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [中部地方]

	愛知県	岐阜県	長野県	生産見込み量 (本)	割合
ケヤキ	4,000		333,600	337,600	56%
コナラ	7,000	66,100	10,000	83,100	14%
ヤマグリ		54,430		54,430	9%
エンジュ			33,000	33,000	5%
イタヤカエデ		20,000		20,000	3%
クスノキ	18,000			18,000	3%
シラカシ	18,000			18,000	3%
アラカシ	8,000			8,000	1%
ミズナラ	4,000		3,000	7,000	1%
ヤマザクラ	6,000			6,000	1%
クヌギ	6,000			6,000	1%
ヤマモミジ	3,000			3,000	0%
アベマキ	2,000			2,000	0%
ツブラジイ	2,000			2,000	0%
ミズメ	1,000			1,000	0%
トチノキ	1,000			1,000	0%
生産見込み量 (本)	80,000	140,530	379,600	600,130	100%
割合	13%	23%	63%	100%	

(平成18年度末現在)

(5) 近畿地方

近畿地方では、2種の広葉樹苗木の生産が見込まれており、その量は約2万本となっている
(図 4.22及び表 4.32参照)。

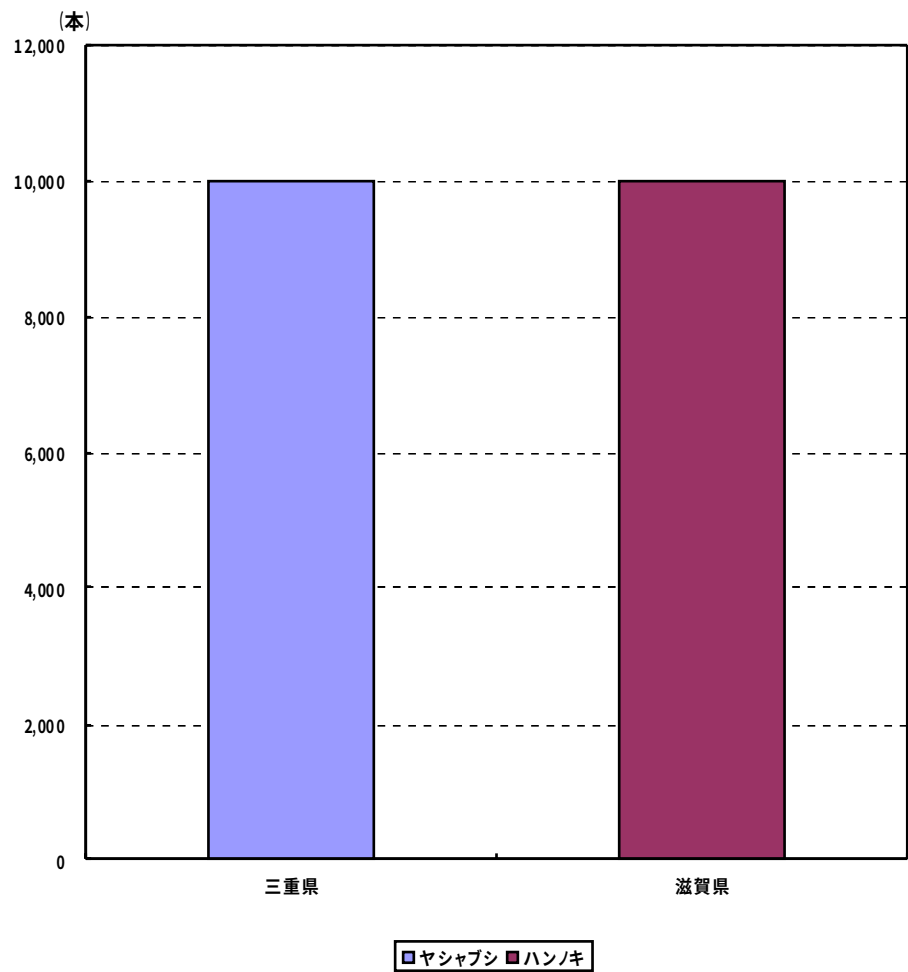


図 4.22 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [近畿地方]

表 4.32 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [近畿地方]

	三重県	和歌山県	生産見込み量 (本)	割合
ヤシャブシ	10,000		10,000	50%
ハナンギ		10,000	10,000	50%
生産見込み量 (本)	10,000	10,000	20,000	100%
割合	50%	50%	100%	

(平成18年度末現在)

(6) 四国地方

四国地方では、7種の広葉樹苗木の生産が見込まれており、その量は約21万本となっている(図 4.23及び表 4.33参照)。

高知県内で種穂等を採取した広葉樹苗木は、約15万本の生産見込み量となっており、四国全体の7割となっている。

植物種は、クヌギが最も多く約10万本となり、四国全体の生産見込み量の約5割を占めている。次いで、ヤシャブシが約4万本(21%)、コナラが約3万本(14%)となっている。

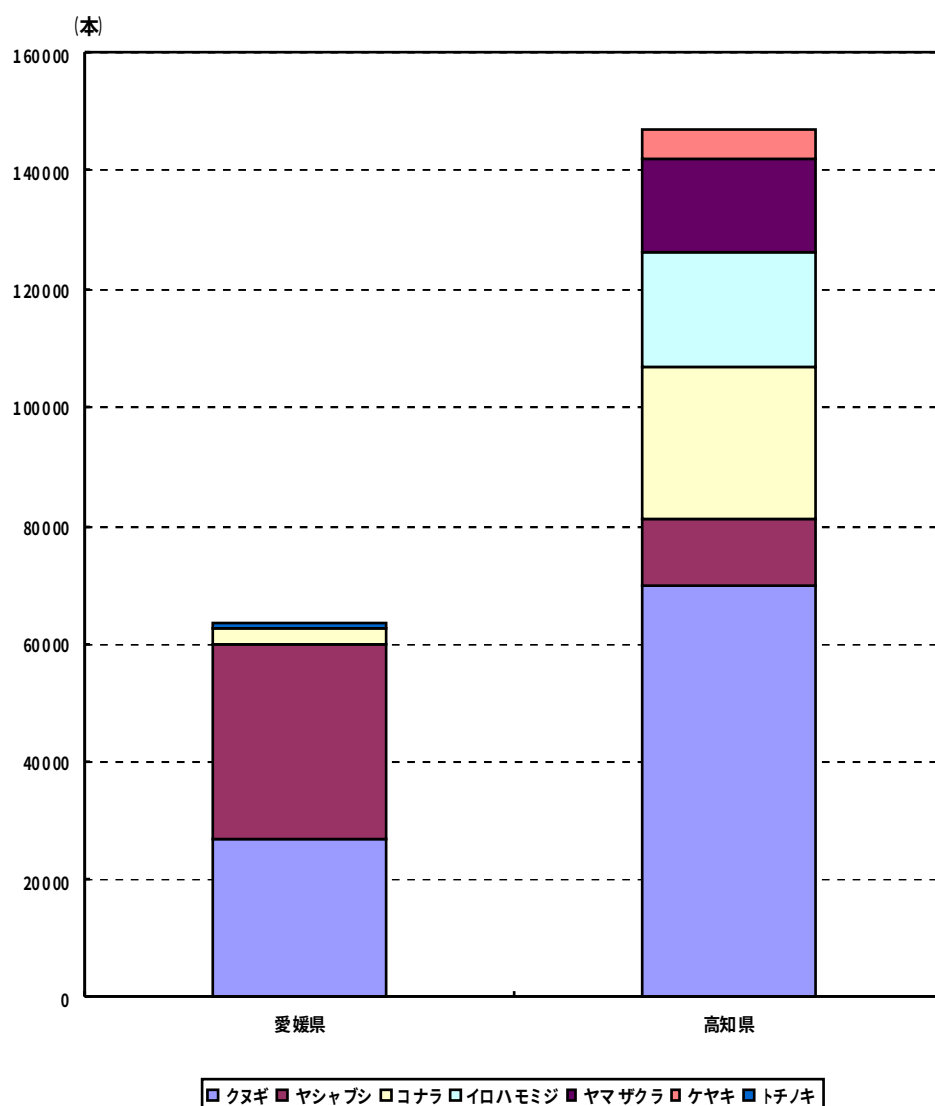


図 4.23 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [四国地方]

表 4.33 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量〔四国地方〕

	愛媛県	高知県	生産見込み量(本)	割合
クヌギ	26,800	70,000	96,800	46%
ヤシャブシ	33,000	11,000	44,000	21%
コナラ	2,500	26,000	28,500	14%
イロハモミジ		19,000	19,000	9%
ヤマザクラ		16,000	16,000	8%
ケヤキ		5,000	5,000	2%
トチノキ	1,000		1,000	0%
生産見込み量(本)	63,300	147,000	210,300	100%
割合	30%	70%	100%	

(平成18年度末現在)

(7) 中国地方

中国地方では、24種の広葉樹苗木の生産が見込まれており、その量は約83万本となっている(図 4.24及び表 4.34参照)。

中国地方のうち、岡山県内で種穂等を採取した広葉樹苗木生産見込み量が最も多く約25万本(29%)となっており、次いで、鳥取県内で種穂等を採取したものが約20万本(24%)となっている。

植物種は、コナラが最も多く約17万本となり、中国地方全体の20%を占めている。次いで、クヌギ及びケヤキがそれぞれ約14万本(17%)となっている。

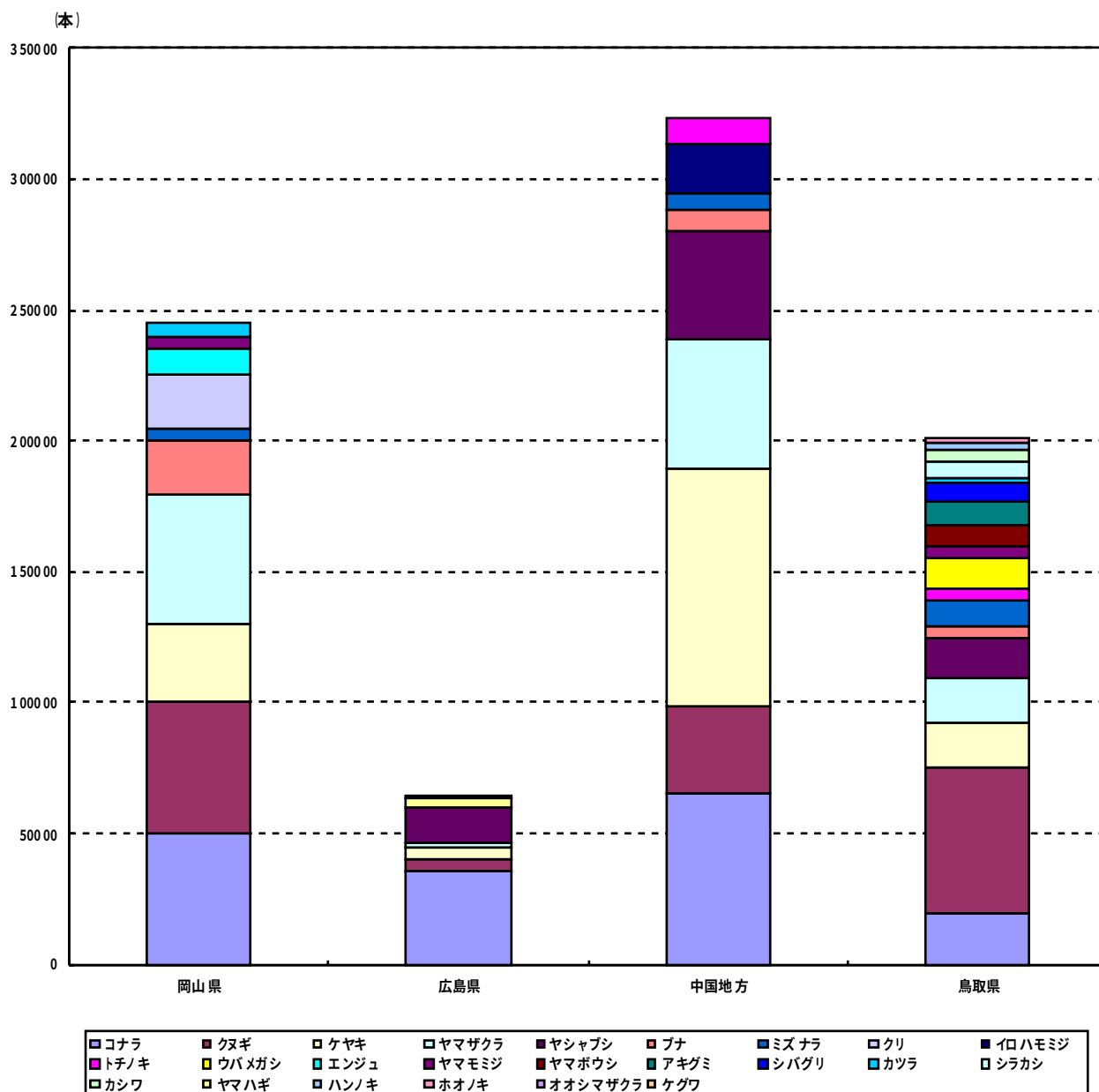


図 4.24 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [中国地方]

表 4.34 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [中国地方]

	岡山県	広島県	中国地方	鳥取県	生産見込み量 (本)	割合
コナラ	50,000	36,000	65,000	19,700	170,700	20%
クヌギ	50,000	3,700	34,000	55,500	143,200	17%
ケヤキ	30,000	5,400	90,000	16,700	142,100	17%
ヤマザクラ	50,000	1,400	50,000	17,200	118,600	14%
ヤシャブシ		14,000	41,000	15,300	70,300	8%
ブナ	20,000		8,500	4,400	32,900	4%
ミズナラ	5,000		6,500	10,300	21,800	3%
クリ	20,000				20,000	2%
イロハモミジ			18,000		18,000	2%
トチノキ			10,000	4,300	14,300	2%
ウバメガシ				12,500	12,500	1%
エンジュ	10,000				10,000	1%
ヤマモミジ	5,000			4,300	9,300	1%
ヤマボウシ				8,100	8,100	1%
アキグミ				8,100	8,100	1%
シバグリ				7,500	7,500	1%
カツラ	5,000			2,100	7,100	1%
シラカシ				6,600	6,600	1%
カシワ				4,100	4,100	0%
ヤマハギ		3,000			3,000	0%
ハンノキ				2,200	2,200	0%
ホオノキ				2,200	2,200	0%
オオシマザクラ		1,000			1,000	0%
ケグワ			300		300	0%
生産見込み量 (本)	245,000	64,500	323,300	201,100	833,900	100%
割合	29%	8%	39%	24%	100%	

(平成18年度末現在)

(8) 九州地方

九州地方の広葉樹苗木は、宮崎県内で種穂等を採取したもののみとなっており、生産種数は8種、生産見込み量は約39万本となっている(図 4.25及び表 4.35参照)。

植物種は、クヌギが最も多く約26万本となり、九州全体の生産見込み量の67%を占めている。次いで、ヤマザクラが約9万本（22%）、ケヤキが約2万本（6%）となっている。

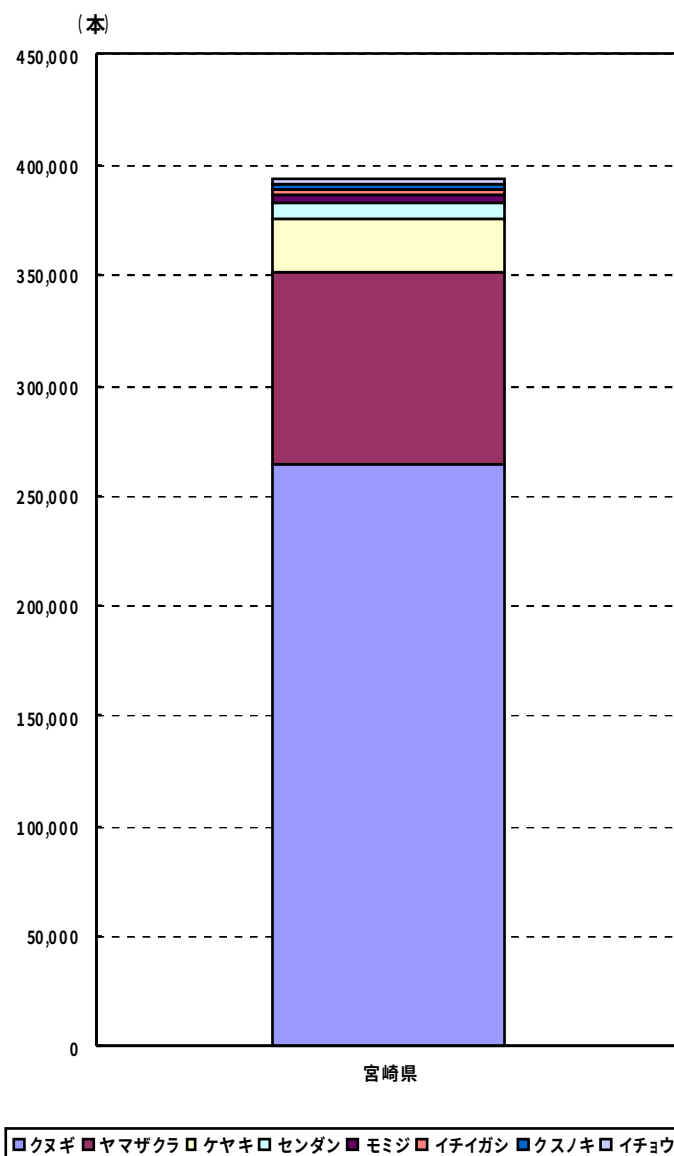


図 4.25 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量 [九州地方]

表 4.35 認定登録者による広葉樹苗木生産見込み量〔九州地方〕

	宮崎県	生産見込み量(本)	割合
クヌギ	264,300	264,300	67%
ヤマザクラ	87,400	87,400	22%
ケヤキ	24,000	24,000	6%
センダン	6,500	6,500	2%
モミジ	3,700	3,700	1%
イチイガシ	3,100	3,100	1%
クスノキ	3,000	3,000	1%
イチヨウ	1,500	1,500	0%
生産見込み量(本)	393,500	393,500	100%

(平成18年度末現在)

4.4 地域性在来緑化植物の供給体制の現状のまとめ

上述の調査結果を踏まえ、地域性在来緑化植物に係る供給体制の現状について表 4.36に整理する。

表 4.36 供給体制の現状のまとめ

項目	内容
生産・供給量	● (社)日本植木協会の「地域性苗木」は、約 114 万本（平成 19 年 10 月）が生産されている。 ● (社)日本種苗協会では、地域性在来緑化植物に類する緑化材料として約 550kg・28 万株（平成 18 年度末）の供給実績がある。 ● 全国山林種苗協同組合連合会の「広葉樹苗木」は、約 430 万本（平成 19 年 3 月末）が生産見込みとなっている。 ● 「地域性苗木」が平成 19 年 3 月の時点でも同量の生産がなされていると仮定すると、苗に関しては約 550 万本、種子に関しては 15 万トン生産・供給されていることが想定される。
供給方法	● (社)日本種苗協会では、山採りした種子をほ場で育苗して出荷しているものが大半を占めている。 ● (社)日本植木協会及び全国山林種苗協同組合連合会では、その生産形態を考慮すると山採り等により採取した種をほ場で育苗し出荷している。 ● このため、地域性在来緑化植物の供給は、山採りした種子をほ場で育苗して供給する方法であるといえる。
今後の供給可能性	● 「地域性苗木」の生産にあたっては、今後需要があれば現状よりも多く供給できる又は今後の需要にかかわらず現状と同水準の供給ができると回答したものが全体の 8 割超となっている。 ● (社)日本種苗協会における今後の供給可能性としては、7 社中 2 社が需要があれば現状よりも多く供給できるという回答を得たが、可能性がないという回答も 2 社あった。 ● 以上から、主に木本苗に関しては需要に応じて十分な供給が可能と考えられるが、種子の供給可能性に関しては需要の有無にかかわらず不透明である。
生産・供給を促進する条件	● (社)日本植木協会における「地域性苗木」の生産を促進する条件としては、「需要情報の公開」、「流通範囲の明確化」があげられている。 ● (社)日本種苗組合での地域性在来緑化植物の供給を促進する条件としては、「需要情報の公開」、「明確な基準の明示」、「流通範囲の明確化」、「地域ごとに使用可能な植物種名の提示」があげられている。 ● 以上から、地域性在来緑化植物の生産・供給を活性化させるためには、特に公共サイド等からの需要情報の発信、地域性在来緑化植物の定義等の明確化、種苗等の採取地に対応可能な流通範囲の明確化に関する検討が求められている。
生産・供給の問題点	● (社)日本植木協会では、問題点として「需要の見通しが不明」、「規格や品質、数量が揃にくい」などが多くあげられている。 ● (社)日本種苗協会でも(社)日本植木協会と同様の事項が問題点として多くあげられている。

項目	内容
	● このため、地域性在来緑化植物の生産・供給にあたっては、需要情報の開示や証明手法の整備、規格や数量が確保しにくい中での発注条件等の柔軟な対応が求められている。
生産・供給に係る要望	以下に要望としてあげられた主な意見を示す。 ● 地域性在来緑化植物の生産・供給にあたっては、予約生産や受注生産の形態が望ましい。 ● 一般緑化材料と異なる独自の基準や、標準的な基準に対して許容する幅が必要である。 ● 公的機関により証明が必要である。